

獨逸
哲學
英譯
完

獨逸 片利知蒙利須查利冒斯 原著
日本 竹越與三郎 講述
由井正之進 筆記

東京·
報告堂

序

獨逸哲學ノ講竣ル客アリ余ヲ難シテ曰ク全春ノ花葉ニ

アル一花葉ノ春ニアラサルナシ然レモ花葉ニ即テ春ヲ

求ムルモ春固ヨリ觀ル可ラサルナリ今マ夫レ眞理ノ天

下ニ存スル猶ホ全春ノ花葉ニ在ルカ如シ指馬互ヒニ交

ハリ蕉鹿相辨シ百家各々守ル所アリテ萬籟齊シク鳴リ

其相論スルヤ情函矢ニ隨テ變シ法人我ヲ追テ以テ高低

シ是非紛絮能ク辨析スルナシ然レモ其間自ラ至理ヲ存

シテ妙道ニ通ス爾カモ此個々ニ即キテ至理ヲ求ムルハ

猶ホ一花一葉ヲ取リテ春ヲ尋ヌルカ如シ且ツ夫レ今ノ

時ハ宇宙ノ常經萬物相離分スルノ秋ニ際スルヲ以テ人

生類族ノ分愈々多ク國土州邦ノ別益ニ甚シク延ヘテ論
談ニ至リテ説ノ相異ナル古來未ダ曾テ遭遇セサル所ニ
シテ愈々出テ、愈々殊ナリ古ノ是トスル所今ハ則チ非
トシ西人ノ執ル所東人ハ則チ棄ツ之ヲ思フニ恐ラク
ハ二人同一ノ感ヲ懷クモノナカラシ世稱ス智漸ク進ム
テ理漸ク辨スト今代ノ光景ヲ以テ之ヲ見ルニ徒ラニ紛
亂ヲ見ルノミ此ノ如クシテ已マスンハ天地ノ眞理宇宙
ノ大法ハ煩然トシテ殺亂シ言ノ則ルベキナク行ノ規ル
ベキナキニ至ラン故ニ今ノ時ニ方リテ學者ノ務ムベキ
ハ離分ヲ拒キテ總合ヲ執リ諸説ヲ集メテ之ヲ概括シ以
テ其大法大理ヲ求ムルニアリ爾ルニ子ノ爲ヲ見ルニ國

土ノ別ヲ以テ哲學ヲ分ツ嗚呼幾何カ其レ一花一葉ヲ取
リテ春ヲ尋ヌルモノニ非ラン幾何カ其レ萬物ノ離分ヲ
賛クルモノニアラサラント
余之ニ告ケテ曰ク嗚呼理ヲ云フ何ソ容易ナラン昔ハ宋
人其子ヲ誨ヘテ曰ク人ヲ怒ル勿レ人ヲ鞭ツ勿レ他ヲ傷
ムコト已レテ傷ムカ如クナルベシト其子聽カス即チ怒
リ之ヲ鞭チテ省ミズト今マ子ハ余ニ勸メ一花一葉ヲ取
リテ全春ヲ分ツ勿レト云ヒ躬自ラ余ト説ヲ分ツ殆ント
宋人ノ流ナリ思フニ總合ノ說離分ノ憂固ヨリ可ナリ然
レモ人力ヲ以テ強テ之ヲ今ニ施サントスルハ卵ヲ見テ
時ツクランコトヲ求メ彈ヲ見テ炙ヲ欲スルカ如シ抑モ

亦タ大早計タルヲ免レサルナリ今夫レ吾カ成立ハ久遠
ナリト雖モ其前後ハ皆ナ時間ニシテ時間ノ離分若シ已
ムナクンバ吾カ成立ハ泡沫ニ等シカラシ吾天地ハ大ナ
リト雖モ其周圍ハ皆ナ空間ニシテ空間ノ離分若シ已ム
ナクンバ天地ノ懸成ハ夢幻ノ如クナラン何トナレハ時
間空間ノ離分若シ已ムナクンバ是レ宇宙ノ成立ヲ容サ
サルモノナレハナリ然リト雖モ天ノ斯民ヲ生スル豈ニ
偶然ニシテ徒ラニ蠕然トシテ動キ慨然トシ漸セシムル
ニ止ランヤ必ズヤ宇宙ノ大經ニ順ヒテ一定ノ行路ヲ追
ハサル可ラサルナリ其レ已ニ然ラハ其成立ヲ容サ、ル
可ラス其成立ヲ許サントセバ天地万物ノ離分ヲ縱ニス

可ラサルナリ蓋シ天地ノ間固ト離分ノ力アリト雖共ニ
亦タ致一ノ力アリテ萬物ヲ牽制ス之ヲ以テ日星空ニ懸
リ之ヲ以テ山河地ニ峙ス人我兩者ノ成立時空兩間ノ連
續皆ナ此理ニ由ル此理タルヤ萬物ニ周流シ天地ニ彌漫
シ施サ、ル所ナシ故ニ彼ノ人々說ヲ相分ツカ如キ此理
法ニ因テ離分ニ自ラ程度アリ衆說自ラ致一ノ點アリ之
ヲ此事ニ放任スベキナリ且ツ夫レ今ノ時ニ方リテ人々
說ヲ相分ツハ宇宙ノ常經ニシテ眞ニ已ム可ラサルモノ
アリ何ソヤ曾テ思フニ萬物發生ノ順序ニ三アリ即チ當
初ハ單純ニシテ中コロ參差シ終リニ致一スルヲ是ナリ
比ヘバ夫ノ人種邦國ノ別ノ如キ其太古草昧草木榛々鹿

六
豕猪々ノ時ニ方リテヤ地茫トシテ以テ廣ク人寂トシテ
以テ靜カニ種族ノ別未タ現セス邦國ノ分尙ホ生セス天
地ノ萬物單純ニシテ未タ曾テ離分ノコトアラサルナリ
而シテ後人ノ私心相鬪ヒ右是左非各々相守ル所アリ即
チ其之ヲ好惡スルモノ則チ又タ各々同スル所アリ此ニ
於テカ黨ヲ生ス黨ノ相結ボル久フシテ其好惡愈々背馳
シ争鬪幾春秋此ニ於テ種族ノ別ヲ生ス種族又タ各々力
ニ因テ地ヲ占メ之ヲ占ムルモノハ其之ヲ失ハンコトヲ
恐レテ鬪戰攻伐各々一隅ヲ守ル此ニ於テ黨内黨ヲ分チ
族中族ヲ別テ即チ又タ邦國ノ内邦國ヲ分ツ是ヨリシテ
人愈多クシテ種族邦國ノ別益多シ而シテ後チ強豪ノ種

七
族出テ、南征北伐遂ニ天下邦國ノ致一ヲナシ尋テ種族
ノ合一ヲ生ス是レ萬國共和說ノ起ル所以ナリ
夫レ萬物進化ノ須序此ノ如クナルカ故ニ人生ノ眞理ニ
争フ亦タ此ノ如ク彼ノ始メテ此世ニ來タルヤ直ニ己レ
ノ奇ニシテ妙ナル宇宙ニ生息シ其顯象理法ハ常ニ己ノ
生存ニ反スルノ觀アリ而シテ人ノ智力ト自由トハ又タ
常ニ之ヲ防禦シ人生一瞬泡沫夢幻ノ如キモ猶ホ且ツ其
理法ヲ知り其勢力ヲ量ルニ汲々營々トシテ漸ク其一端
ヲ得タリ曰ク魚ハ水ニ住ミ獸ハ山ニ在リ蒼々タルハ天
茫々タルハ地ニシテ自己ハ禽獸ニ非ス歩趨スレバ一足
必ズ地ニ踵キ兩足ヲ揚ゲテ飛ブハ鳥ニ非ンバ克ハス雲

ノ溶洩トシテ相曳クハ定マル所ナリ雨後必ズ晴アリ寒
ニシテ冬暑ニシテ夏春風至リテ百花笑ヒ秋氣下リテ草
木凋ムト此ニ於テ之ニ順ヒ之ヲ利シ以テ飽キ以テ暖ナ
ルヲ得タリ爾レモ人生智力ノ運行ハ猶ホ此ノ如キニ止
マラス首ヲ揚ケテ蜀ヲ望ンテ曰ク己ニ人生ノ知了スル
所ノ眞理ハ實ニ爾リ爾リト雖モ其レ何ヲ以テカ爾ルヤ
ト此ニ於テカ之ヲ解カント欲シ百家洪然トシテ起リ天下
ノ理因テ紛然タリ是レ當初ノ單純ヨリ漸ク參差ニ進ム
ノ光景ニシテ猶ホ邦國人種ノ初メニ別ナクシテ漸ク離
分ヲ生ズルカ如シ而シテ今ノ理論界ノ時期正ニ此ニ中
レリ故ニ是非ノ辨眞僞ノ論且暮盡キス蝸蟬蛙龜ノ相鳴

クニ似厯然トシテ參差シ區然トシテ同カラス殆ント天下ノ
智力ヲ集メテ此ニ向フノ觀アリ猶ホ孟春ニ花卉娟ヲ競
フカ如シ然レモ適マ分ル、ハ天ノ時ナリ適マ合フハ天
ノ順ナリ天地ノ時順常經ノ運行其約ヲ過タスンハ蓋シ
亦タ遂非ニ天下衆說ノ致一ヲ見ルノ謂ナキニ非ルベシ
然ラハ今ニ方リテ一花一葉ヲ取リテ春ヲ論スルモ未タ
晚カラサルナリト客唯々トシテ退ク因テ記シ以テ序トナ
ス

明治甲申九月

竹越夢履識

凡例

講者 識

一此書ハ余カ纂キニ獨逸國キール大學校哲學博士チヤ
 ーリボース氏著想考哲學相傳史ヘツジ氏著日耳曼藝
 文誌テンチマンチ著哲學史纜要レウヰス氏著哲學紀
 傳史ノ四書ニ即キテ獨逸哲學ヲ講述セシモノヲ筆記
 セシモノナリ而シテ力チ四氏ニ得テ卷端唯リチヤ
 リボウス氏ノ名ヲ署スルハ其講述專ラ此人ニ頼リ三
 子ハ參考ニ供スルニ過キサレハナリ

一方今世人ノ言フ所ニ從ヘハ日耳曼ノ哲學ハ四大哲學
 者ニアリト云フカ如シ然レモ是レ定論ニ非ス邪呼媿
 子包波士子ノ如キ四家ト趣チ異ニスト雖モ亦タ大家

タルヲ失ハス且ツ近來ノ新式哲學ノ如キ大ニ日耳曼
 ノ文學上ニ光采ヲ生スルモノ少カラス故ニ皆ナ之ヲ
 筭入セリ蓋シ此書ハ單ニ獨逸哲學中ノ英チ咀ミ華チ
 含ムヲ以テ目途トシ初ヨリ主義ノ如何チ問ハサレハ
 ナリ

一欄外ニ東洋ノ哲學者ノ言語ヲ并羅スルハ一ハ以テ東
 西兩洋哲學ノ致一ヲ示シ一ハ以テ漢學ノ力アルモノ
 ノ本文ヲ解セシメンカタメナリ

一本書記スル所ノ哲學者ノ他猶ホ沙流西斯密奴理院保
 土明紋屏典理知藍苦明倫墮尾土是須斯佞兒縱宇曼暮
 論亞尾土比瑣兒泥寧武志布土蘭苦保兒別利ノ諸子各

門戸ヲ張り獨國ノ哲學由テ其功ヲ竣ルノ力アリ然レ
 凡今別ニ余地ナキヲ以テ他日補遺トシテ出板スルコ
 トアルヘシ

一近來ノ譯書往々文辭題目ヲ譯スルニ勉メテ彼己國ノ
 文辭ヲ直寫セントスルアリ然レ凡是レ定論ニ非ス彼
 ノ阿彌陀經ノ如キハ元來淨心ヲ説クモノニシテ淨心
 ナレバ壽無量ナルヲ得ベキカ故ニ之ヲ譯シテ無量壽
 經トナスカ如キ以テ意ヲ取り語ヲ取ラス以テ一例ト
 ナスベシ

譯字釋義

講者 識

凡ソ哲學上ニ使用セル文字ノ普通ノ文書ニ使用スル
 文字ト意義ヲ異ニシ一個ノ特質ヲ有スルハ皆ナ爾リ
 ト雖モ獨國ノ哲學ハ尙ホ一層諸派ノ哲學中ニ特殊ノ
 意義ヲ有スルガユヘニ之ヲ左ニ解釋ス就中主觀客觀
 等ノ文字ハ獨國哲學ノ因テ其成立ヲ保ツ所ノモノニ
 シテ之ナクンハ殆ント獨國ノ哲學ナシト云フモ可ナ
 ルカ如クナレハ讀者意ヲ此ニ注クベシ又々譯字中余
 カ儘キニ控峴氏ノ哲學宗統史ヲ譯スルノ際新ニ譯ヲ
 下タセシモノヲ今此ニ襲用シテ釋義中ニ入ル、アリ
 同書ノ釋義中ニ新譯ノ文字ハ皆ナ新ノ字ヲ附スト雖

モ今マ此ニ此法ヲ用ヒス

主観

英語ノ「サブゼクテーブ」ニシテ外物ニ對セル自己トイフ義「心裡ノ」或ハ「心ノ働ニテ」或ハ「理性上ノ」トイフモ同義間ニ内界トイフト同シキ場合アリ

客観

英語ノ「チブゼクテーブ」ニシテ自己ニ對スル外物ノ義「自己ナラサル」或ハ「心外ノ」或ハ「外物ヨリ起レル」トイフモ同義間ニ外界トイフト同一ナル場合アリ

連結

英語ノ「コンベチーシヨ」ニシテ事物ノ相連續スルヲ云フ比ヘハ「一犬ノ毛髮ハ一尺ノ毛髮ノ連續セルモノニシテ一尺ハ一寸一寸ハ一分ノ連續セ

ルモノナリト云フカ如ク或ハ一年ハ十二月ノ連續セルモノト云フカ如シ

關係

事物必然ノ連絡ナイフ比ヘハ原因ト結果或ハ初ト終或ハ下リテ上アルカ如キ或ハ靈魂ト肉体或ハ時間ト空間ノ如キ或ハ雷聲ヲ聞キテ其必ス電光アリシヲ知ルカ如シ

表詮

從來正説或ハ肯定ト譯セルモノニシテ是トスル所ヲ表ハシテ詮ニスルノ義英語ノ「アツファールシヨ」ニシテ佛者因明中ノ文字ヲ襲用ス

遮詮

從來反説或ハ否定ト譯セルモノニシテ其意ノ非トスル所ヲ遮礙シテ之ヲ詮ハスノ意又タ因明中

ノ語ナリ

單元

英語ノ「アキシナム」ニシテ假令バ白ト黒トハ異ナ

リ一ト四ハ五ニシテ三ハ四ヨリ少ナリトイフカ

如キ或ハ大ハ小ト同シカラストイフカ如キ心ノ

直覺力ヲ以テ判斷シ得テ更ラニ據証ヲ要セサル

道理ヲ云フ

古語

徒ラニ古人ノ言ヲ援キ來リテ論議ノ聲援ヲナス

論

ヲ云フ漢人ノ孔子曰ク云々トイフカ如シ佛者ノ

因明中ニハ之ヲ聖教量トイフ英語ノ「チウヅリチ

」ナリ

目錄

✓韓圖子

畧傳 日耳曼哲學之由來 韓子哲學概見判斷力論

非低子

畧傳 非子哲學方式之基礎 非子觀念論應用

勢麗非子

畧傳 勢子教義概論

邪呼媿子

畧傳 邪子哲學概見

包波士子

哲學概見

歌傑兒子

畧傳 歌子哲學概見 歌子哲學之方式

論理學 宗教技術哲學論 經驗哲學論

哲學不容曉知論 亞子之一言

新式哲學

性理生理學派

133

泚持子ノ日

耳曼文藝誌

ノ英譯者曾

テ云ヘルコ

トアリ曰ク

讀者此書ヲ

讀ンテ往々

通曉セサル

所アルモ嘆

スルコト勿

レ通曉スル

克ハサルハ

日耳曼文學

ノ通質ナリ

ト

獨逸哲學英華

獨逸 片利知蒙利須查利胃斯 原著

竹 越 與 三 郎 講述

日本 由 井 正 之 進 筆記

圓蟻郵留韓圖子

曾テ聞ク古ヲ是トシテ今ヲ非スルヲ今マ見ル今人ノ
古人ニ勝ルヲ蓋シ天ノ構造ハ時ノ後先ヲ以テ斯民ヲ
棄テサルナリ嗚呼古今何ノ時カ聖人ナカラシ吾人ハ
十八世紀布刺多ノ聖ヲ以テ之ヲ古ニ誇ラントス是レ
誰ソヤ姓ハ韓圖名ハ圓蟻郵留ナルモノ即今是ナリ子

ハ千七百二十七年四月廿二日古普露西ノ折仁斯瀑ゴ
生レ九歳ニシテ弗例度里者那ノ中學ニ入り早ク已ニ
神童ノ名ヲ博シ千七百四十年本土ノ大學ニ入り始メ
テ神學ヲ修メシカ久シカラスシテ出テ一親戚ノ管財
トナリ千七百五十五年再ビ本土ニ歸リ得業生ノ學位
ヲ受ケ爾後大學ノ諸生ノタメ論理性理物理數學ノ諸
學ヲ講スルコト十有五年ニシテ論理窮理學ノ博士ト
ナリ千八百四年二月十二日ヲ以テ遠逝ス壽ヲ得ル實
ニ八十歳生來己レノ本土ヲ離ル、五十里外ノ地ハ未
タ曾テ跡マスト雖モ其名聲ハ廣ク世界ニ傳播シテ普
及セサル所ナシ一生遂ニ妻ヲラスト雖モ交際常ニ廣ク

溫顔人ニ接シテ喜怒色ニ見レス服裝器具ハ常ニ美麗
清潔ナルモノヲ用ヒ骨牌ヲ好ムコト甚シク一夜ト雖
モ之ヲ弄ハサルノ日ナク極メテ淡薄ノ人ナリシト云
フ其批評哲學ノ主義ヲ執リシハ祿苦飛宇無ノ說ヲ聞
キテ澳爾府ノ說ヲ棄テシノ時ニアリ其功業ハ唯リ哲
學上ニ存スルノミナラス物理天文等ニ於テモ極メテ

有益ナル發明論說少ラス

夫レ社會ノ事物タル各一善一美ヲ保チ純一無雜ノ善美
ヲ保ツモノハ未タ曾テ之アラサルナリ之ヲ以テ利用ノ
點ヨリ見テ以テ善トナスモ公正ノ點ヨリ見テ以テ否ス
トナスアリ用公ノ二點ヨリ見テ以テ是トナスモ美麗ノ

在昔希臘ニ
於テ初メテ
公用美ノ論
アリ其意事
物ノ以テ善
トナシ以テ

惑トナスヘ
キハ其利用
公正美麗ノ
三點ヲ標準
トシテ之レ
適フヤ否ヤ
ヲ以テ之ヲ
判スルニア
リ

日耳曼哲學
ノ長所

點ヨリ見テ以テ非トナスアリ皆ナ見ル所ノ點遭フ所ノ
處ヲ以テ之ヲ是非スルヲ得ベキノミナラス絶對ノ上亦
タ誠ニ個ノ是非アリ是レ猶ホ牛馬ノ大ナル屯雲ノ如キ
モ其巧致狐狸ニ及バサル所アルカ如ク各守ル所アルニ
出ルナリ其レ此ヲ以テ日耳曼ノ文學ハ創造始原ノ點ニ
於テハ英ニ劣リ壯快致樂ノ點ニ於テハ佛ニ劣リ莊大通
俗ノ點ニ於テハ西イタリヤニ劣リ美觀完全ノ點ニ於テハ以イタリヤニ劣
ルモ而カモ高尚深遠ノ點ニ於テハ聳然トシテ秀出シ自
余諸州ノ及バサル所タリ而シテ此高尚深遠ハ是レ前世
紀ノ初ヨリ講理ニ孜孜トシテ憤ヲ葆光ノ天府ヲ破リ滑
疑ノ天倪ヲ解カンコトニ發シ老ノ將サニ至ラントスル

日耳曼哲學
ノ淵源

韓圖子以爲
ヲシ人象天
象ノ紛々々
ル錯綜知リ
易ヲス千源
方派滔々汨
々類ヲ異ニ
シ種ヲ異ニ

ヲ知ラサル所ノ哲學上ノ諸英雄ノ遺風ニ出ルナリ
思フニ日耳曼ノ哲學カ其一般文學ノ上ニ起セルカ如キ
非常強大ノ波動ハ古來歐洲哲學ノ歴史ニ於テ未タ曾テ
遭遇セサル所ニシテ夫ノ批評哲學及ヒ超絶哲學トランスセンショナルロジックノ如キ
ハ實ニ此際ニ生セリ抑モ批評哲學ハ韓圖子ニ始マリテ
韓圖子ニ終リ遮詮的ニシテ破壊ノ性アリ超絶哲學ハ批
評哲學ヨリ流出シ表詮的ニシテ整正ノ質アリ韓圖子ガ
古來ノ傳説ノ誤謬ヲ批評說破シテ途ヲ關クニ乘シ觀念
學家タル非低子ヒツテ哲學進行ノ主觀的ノ途ヲ求メ天地上帝
說ヲ保持セル勢麗靡子其客觀的ノ路ヲ執リ風雲大ニ哲
學界ニ起ツテ英雄頻リニ講理境ニ際會シ那呼尾包濕圖

スト雖モ之ヲ分ツテ外物ト我トノ作用ニ歸スヘシ故ニ二者ノ作用時ニ相異ナルヲ以テ物我待代万態紛糾何レカ其レ眞ナルヲ知ル能ハス二者ノ間相反ノ質アリ然レハ本來絕對ノ上ヨリ考察スレバ此相反ハ

須意慮禮兒ノ徒其間ニ馳驅シ遂ニ萬有靈智ノ賢歎傑兒子ニ至リ一個廣延ノ方式中ニ天下各派ノ哲學ヲ包容スルノ法ヲ樹ツルニ及ビ此二哲學其大成ノ功ヲ竣ルヲ告ゲシナリ此時ニ方ツテヤ獨國ノ諸子洪然トシテ起リ百家内ニ相爭フト雖モ其執ル所ハ皆ナ此二派ノ内ニアルヲ以テ旗幟精明萬國ニ誇耀シ以テ所謂獨逸哲學ナルモノヲ成セリ而シテ二派ノ内超絶派ハ亦々實ニ其根基ヲ批評派ニ有セルヲ以テ韓圖子ノ獨逸哲學ニ於ケルハ猶ホ神子ノ創世紀ニ於ケルカ如シ然ラハ則チ此書ヲ始ムルニ圓蟻郵留ノ字ヲ以テスルハ理ノ當サニ容ルス所ナルベシ

忽然トシテ消滅シ物我ノ作用一ニ歸スト後來二派ノ哲學者皆ナ此意ヲ祖述ス知覺論圓覺經彼知覺者猶如虛空知虛空者即空花之相亦不可說無知覺性有無俱遣是則名爲淨覺隨順

然リ而シテ韓圖子ノ聖ナルモ生レナカラニシ天地ノ真理ヲ知了セシモノニ非ラサリシカ故ニ子カ後來見テ以テ誤謬トナスモ當初ニアツテ之ヲ唱道固持スルヲ免ヌカレサリシ是ヲ以テ此書モ亦々其舊ヲ捨テ、新ヲ取ルノ日ヨリ之ヲ創メサル可ラサルナリ而シテ獨逸哲學ナルモノハ其實想考哲學ニシテ其原ヲ英ノ祿昔飛宇無等ノ說ヨリ發セシモノナルカ故ニ茲ニ其然ル所以ノモノヲ畧述セントス抑モ心理ニ於テ知覺ナルモノハ極メテ緊要ニシテ之ナクンバ人ハ殆ンド外物ト同一ナリト云フモ過當ナラザルガ如シ此ヲ以テ想考哲學ニ於テハ極メテ深ク之ヲ討究セリ而シテ其内界ノ知覺ノ眞僞ヲ判

韓子祿子支
善ノ始
曰萬物皆備
於我、曰是心
存則物存、是
心亡則物亡
ト觀念論固
ト漢土ニア
リ曰心外無
一物ト唯心

セントセハ必ス先ツ其知覺ナルモノ、本原ヲ講究スル
ヲ要ス故ニ祿苦子ハ此種ノ事功ヲ勉メテ其本原ヲ跡子
ンコトヲ唱道シテ一個ノ批評派ヲナセリ個ハ韓圖子ノ
批評派ト大ニ趣行ヲ異ニスルノミナラス却テ反對ノ點
アリト雖モ猶ホ其批評ヲ勉ムルノ一點ニ於テハ是ト相
似タルモノナリ今其支吾スル所以ノ要點ヲ舉グレハ韓
圖子ハ吾人が客觀ノ外物ヲ之アリト認識スルハ思想ノ
主觀的ノ必然ヨリスルモノトナセモ祿苦子ハ之ヲ外物
却テ思想ノ必然ヲ生スルモノトナスカ如キ是ナリ元來
内界ノ知覺ハ妄ニ生スルモノニ非ズ故ニ祿苦子ノ曰ク
知覺ハ客觀ノ物体ニ因テ生スルモノナルガ故ニ萬物ハ

汎圖ト佛者
コアリ
曰心非汝有、
就有之哉、是
諸境緣積習、
而假名耳

其大小長短悉ク外界客觀ノ形体ニ從ツテ主觀内界ニ現
ハレサル可ラス仔細ニイヘバ之ヲ代現セサル可ラス此
ノ如シハ外物ノ成立廣袤ハ内界ニ於テ妄ニ之ヲ廣狹ス
ル克ハサルカ故ニ内界ノ知覺其外界ノ物体ニ隨属スル
モノハ之ヲ以テ真正ナリトナスベシ決シテ自己内界ヨ
リ生スルモノニ非ス要スルニ真理ヲ認識センカタメニ
ハ思想ハ全ク我ヲ以テ外物ニ附着セサル可ラスト是レ
即チ祿苦子ノ説ニシテ子ノ徒弟ハ皆チ此意ヲ祖述セリ
飛字無子モ亦タ同一ナル原理ヲ唱道セリ唯タ其相異ナ
ル所ハ子ハ吾人ハ唯ダ感動ニ賴テ外物ノ相關成立及ビ
成果ヲ覺取スルモノトナスニアリ此感動ナルモノハ其

飛子ノ觀念
論

結果ノ源ハ
原因コシテ
原因ノ基ハ
勢力コアラ
勢力動キテ
原因トナリ
一轉シテ結
果ヲ生ス

外物ノ互相ノ内質關係ニ於テ之ナキカ如クナルモ而カ
モ此關係ナルモノカ眞ニ之アルモノトシテ吾人ニ見
ル、モノナラハ亦タ感動ナシト云フベカラス抑モ吾人
カ因テ以テ原因ヲ起コスモノトナス所ノ勢力ナルモノ
ハ唯タ吾人ノ想像ニ因テ之アリトナスノミニシテ却テ
之ヲ以テ吾人が顯象ノ本原ヲ知ラサルノ證跡トナスベ
シ或ハ此原因勢力結果ハ凡ヘテ主觀ヨリ生セル内界ノ
知覺或ハ觀念ト云フベシ而シテ經驗ニ因テ此二者或ハ
三者ノ互ヒニ相關係スルノ觀念ヲ生シ原因ヲ以テ結果
ト連續スルトナス等ノ思想ヲ生セルモノナルガ故ニ關
係ナル語ハ習慣ニ由テ生スルモノニシテ吾人カ主觀的

源
韓子改宗ノ

ニ吾心ヲ以テ顯象ニ附着セシメタル言語ト云フベク其
是非眞僞ハ客觀的ニ之ヲ論スル克ハサルナリ又タ此所
以テ以テ萬物ノ關係スル所以宇宙ノ進行スル所以タル
大法ナルモノニ關シテハ吾人ハ何等ノモノヲモ知ル克
ハザルナリ曰ク正邪ハ黑白ノ色ノ如ク是非ハ辛鹹ノ味
ノ如ク唯タ吾カ感覺ニ於テ之ヲ知覺スルノミ本來眞ト
ニ此事アルニ非スト此ヲ以テ彼ニ對シ祿苦子ノ論ヲ攻
撃シテ餘蘊ナキニ至ラシメ乃チ宣言シテ曰誠ニ祿子ノ
言ノ如クンハ道理ノ本原ハ煩然トシテ殺亂シ言ノ則ル
ベキ行ノ蹈ムベキモノナキニ至ラント此時ニ方ツテ韓
圖子ハ恰カモ澳爾府派ノ性理學ヲ主張セルカ此學派ハ

祿昔子ノ唯感論ヲ雷武仁須ノ方域ニ適應セシメタルモ
ノナルカ故ニ祿子ノ飛子攻撃論ハ忽チ間接ニ拓仁斯瀑
ノ聖人ノ頭腦ヲ衝キ其舊衣ヲ脱シテ新服ヲ着セシムル
ニ至リ遂ニ哲學世界ニ批評ノ治世ナル一時限ヲ開ケリ
是ヨリ先キ祿子ト飛子ハ頻リニ批評的ニ一個人ノ代現
ノ本原ヲ推鑿スルヲ勉メテ遂ニ之ヲ經驗ニ跡ヲ得タリ
シカ韓圖子出テ、再ビ所謂ル本原ナルモノ、本原ヲ推
鑿シ經驗ノ本原ヲ究ハムルヲ批評家ノ目途トナスニ至
レリ之ヲ以テ世稱ス韓子ノ批評哲學ハ二子ノ經練哲學
ヨリ生スト然ルニ韓子ハ即チ曰ク余ヲシテ獨斷ノ陷井
ヲ脱シテ思考哲學ノ廣漠ナル原野ニ出デシメシハ則チ

莊子客成子
曰除日無歲
除内無外ト
萬物相關之
謂ナリ詳細
ハ譯字釋義
ニアリ
韓子ト飛子
ノ差異

是レ墮尾七飛字無子其人ナリ然レモ廣漠ナル原野ニ出
テ、草木榛々鹿豕猶々タルモノヲ清ムルニ方ツテ飛子
ハ余ニ於テ何ニカアラント知ルベシ子ハ此言ニ於テ其
已レノ認識力論ヲ以テ効先儒ノ上ニアリトナスヲ抑モ
子ノ說ニヨレハ原因結果トハ吾人が其ノ顯象ヲ見テ心
ヨリ之ニ附加スル所ノ一總念ナリ此總念ハ經驗ヨリ拔
萃スルモノニ非ズ其レ己ニ然ルヲ以テ必スシモ之ヲ以
テ正當ナルモノトナス可ラスト然ルニ飛子ハ則チ以テ
經驗ヨリ生スルモノトナス是ヨリ二子支吾ノ道ヲ開ケ
リ然レモ吾人ノ思フ所ヲ以テスレハ經驗若シ此總念ヲ
生スルモノナラバ偶然ノモノニシテ普通ト必然トナク

クモノト云フベシ是レ經驗ハ終始相同ジキモノニ非ズ
 シテ時ニ自ラ相徑庭スルアルヲ以テナリ然ラハ則チ總
 念ハ自己乃チ思想ヨリ生スルモノナリトイフヲ以テ正
 當ナリトナスベキ乎故ニ韓圖子ハ猶ホ一步ヲ進メテ曰
 ク世ニ吾ガ認識ハ外物ニ從ヒテ自己ヲ規制スルモノナ
 リトナスアリ然レモ此論ハ到底成功スルコト能ハサル
 可シ請フ之ニ代ユルニ外物ハ認識ニ規制セラル、モノ
 ナリトノ言ヲ以テセント此解釋ハ事實ニ於テハ觀念論
 ノ間ニ大ニ改革ヲ惹キ起コセルモノニシテ彼ノ呼波耳
 仁ニカス加斯子カ天文學上ニ爭亂ヲ放ケタルニ比シテ猶ホ一
 層廣大ナル結果ヲ生ゼリ

而シテ世ノ子ヲ見ル一ナラスシテ甚ダシキニ至リテハ
 之ヲ以テ單ニ詭辨ノ士徒ヲニ堅白ノ說ヲナスモノトセ
 リ嗚呼古今何ゾ訾訾ノ人多キヤ然レモ春蛙秋蟬ノ一啼
 一鳴ハ以テ春秋ノ序ヲ亂スニ足ラスシテ卑人陋夫ノ一
 批一評ハ以テ夫子ヲ輕重スルニ足ラサレハ吾人徒弟タ
 ルモノモ以テ顧ミルコトナクシテ可ナルベシ思フニ其
 事物ヲ會得スルヨリハ寧ロ誤謬ヲ發見スルヲ以テ目途
 トスルヲ見レバ或ハ以テ唯物論者懷疑學家トナスベキ
 カ其論根基ヲ觀念的主觀。經驗的客觀ニ取り起程ヲ歸納
 哲學ナル唯物派ト同シクシ我知識ハ程度廣延モニ有限
 有極ニシテ我カ知ル所ハ單ニ事物ノ一端ニ過サルモノ

盲マ心ハ凡
ソ此コ一ケ
ノ事物アリ
人其ノ善ナ
ルカ悪ナル
カ或ハ黒ナ
ルカ白ナル
カ或ハ然ル
カ然ヲサル
カチ判定ス
ルハ人ニ直
覺力或ハ意
識トナツク
ル心ノ一作
用アリテ之
ヲ判断スル

トシ此ヨリ認識力^{コソニチアソフツキニルチ}ノ查驗ヲナシテ其然否ヲ判スルノ權
衡ハ一巳ノ直覺力或ハ意識ニ訴フルニアリテ經驗ニ訴
フルニアラストナセリ何トナレバ子ノ説ニヨレバ經驗
ハ日常ノ行動ニオイテ十分ノ効用アルモ以テ絶對原始
ノ然否ヲ判定スルノ權衡トナスベカラサルカ故ナリ之
ヲ以テ此經驗ニアラサル知識ヲ名ケテ先天^{アプライサイノレツツ}ノ知識ト云
フ是レ其經驗ノ以テ之ヲ進退スベキニ非スシテ經驗ト
相獨立シ之ニ先テルモノヨリ起來スルカ故ニシテ假令
ヘバ三角形ニ關スル吾人^{コソセツンヨシ}ノ概念ハ比ヘ其目前ニ存在セ
ル形体ニ由テ提起^{ツツクスト}セララル、モノナリト雖モ之ヨリ生出
セシモノニ非ルカ如シ是レ已ニ先天ノ理法ニ從ヒテ内

モノニシテ
此ヲ判断ス
ルノ能力ハ
他ノ般ノコ
トノ如ク經
驗ノ積習ノ
致セルモノ
ニ非スト大
何トナレハ
經驗トハ限
リアル人ノ
能力壽命ヲ
以テ限ナキ
天ノ顯象乃
チ天ノ作用
ノ空間時間
ニ延長セル
モノニ接ス

ニアルモノノ適マ外物ノ誘フ所トナリテ發動ヲナスノミ
此然否ヲ判スルノ權衡ヲ精細ニ他ノ諸物ニ應用スレハ
我カ所謂ル知識ナルモノ、最大部ハ名ケテ知識ト云フ
ベカラスシテ唯タ信認ト云フベキモノ多シトス何トナ
レバ知識ハ内界心裡ノ想フ所ト外界物体ノ顯ハル、所
ト相契合スルモノ則チ客觀主觀ノ相致一セルモノヲ云
ヒ唯ダ内界心裡ノ想フ所則主觀ノ判定ノミニシテ外界
客觀ノ此ト相致一契合スルヤ否ヤノ未ダ分明セサルモ
ノハ名ケテ信認トイヒ而シテ吾カ所謂ル智識ナルモノ
ハ此種ノ主觀ノ判定ニ止マルモノ多ケレバナリ
或人子ニ問ヒテ曰ク然レモ經驗中ニ智識ト稱スベキモ

ルノ結果ナ
レハ悉ク其
理法勢力ヲ
覺取シ得ダ
ルモノニ非
ス名ケテ天
ノ作用ノ偶
然ニ遭遇シ
タルモノト
ナスヘケレ
バ因テ以テ
事物ヲ判定
スヘカラス
之ヲ判定ス
ルハ必ノ能
カ別ニ之ヲ
リト云フコ
アリ

ノハ毫モ之ナキヤト子答テ曰ク之ナシ吾人若シ外界ノ
物体ヲ知覺スルキハ其物体ハ皆ナ時間ノミニ成立セス
又タ空間ノミニ成立セス時間空間ノ兩者ニ成立スルモ
ノトセサルベカラス而シテ此物体ノ時間空間ノ兩者ニ
成立スルコトヲ許容スルコトハ是レ經驗ノ結果ニアラ
ズ何トナレバ經驗ハ之ヲ豫定セサル可ラサルモノナル
ニ未ダ曾テ吾人ニ向ヒテ時間空間ト目以テ見ルヘク
耳以テ聞クヘク手足以テ接スヘキモノトシテ豫定否ナ
吾人ニ示サズレバナリ故ニ又タ事物ヲ見テ其時間空間
ノ兩者ニ成立スルアラバ直ニ其ノ知識ノ正當ナルヲ許
サズルヘカラスト個ハ客觀ノ性質ナラズシテ主觀ノ形

經驗ノ或可
トハ此ク此
クノ實事ハ
實際之アリ

体ヲ示セル我カ知覺ノ体裁ナリ故ニ又タ智識ハ分チテ
形体ノ智識(主觀)主物ノ智識(客觀)トナスベシ此二者ノ内
後者ハ吾人之ニ關シテ何等ノモノヲモ有セサルノミナ
ラス其物ハ物自ラ之アルモノトシテ之ヲ知識スルヲ得
ベキヲモ知ラサルナリ以上知識ハ凡ベテ客觀ナラスシ
テ主觀ナリトノ原理ヲ基トシテ主觀的知識(悟性)ノ方式
ヲ定メ之ニ包含スルニ凡テ吾ガ認識力ヲ以テセントセ
リ是レ韓圖子智識論ノ概畧ナリ
然レモ已ニ論述セルモノヨリ之ヲ推演スレバ知識ハ單
ニ經驗ノ形体境遇ニ關スルモノニシテ全ク其經驗ノ或
可ナルニアルヲ以テ其經驗ニシテ若シ不或可ナルキハ

テ以テ經驗トナスヲ得ヘキヲ云フ故ニ不或可トハ之ニ反シテ實際之アルヘカラサルヲ言フ超絶觀念神明不死等ノコトハ從來ノ經驗ニ於テ未ダ曾テ遭遇セサリト雖ヒ吾カ觀念ハ此ノ如キコトアルヘキ

チ思フ此ノ如キ從來ノ經驗ト相合セサルモノチ超絶觀念トイフ是レ其尋常ノ經驗ヲ超絶スルヲ以テナ

知識モ亦タ不或可トナルベシ故ニ韓子ハ心裡ニ於テ單ニ經驗ノ或可ト契合セサルノミナラス亦タ其本質ニ於テ之ヲ超絶スル所ノ某ノ知覺アルコトヲ發見セリ譬ヘハ神明不死自由等我經驗ノ未ダ曾テ及バサル所ノモノヲ發見シ之ヲ名ケテ超絶觀念ト呼ビ之ヲ受クルノ能力ヲ道理ト名ケタリ然レモ是レ明カニ悟性的知識ノ說ニ反シ知覺ナルモノハ有限ノモノタルヲ以テ其知覺ヨリ得ルモノハ虚偽ノ質アリテ其然否ノ判定ヲ經驗ニ訴ヘサル可ラス故ニ超絶觀念力理性的知識ニ對セル要求ハ唯ダ纏綿トシテ連續セル虚偽ニ過キス超絶(已ニ)ニアラスシテ可超絶的ノミ之ヲ以テ超絶觀念ハ吾人ニ教フル

ニ某ノ客觀ノ性質ヲ以テスル克ハス唯ダ經驗的ノ知覺ノ如ク主觀ノ理法ヲ宣示スルニ過キス此ヨリシテ子ハ又タ曰ク各超絶觀念ハ皆ナ反對ヲ包ムト仔細ニイヘハ吾人客觀ニ關スルモノヲ主張セント欲シテ理性的ノ應用ヲナサントスレハ同一ノ眞理的ノ觀相アル二個ノ命題ヲ來タスニ至ルベシト之ヲ以テ吾人ノ宇宙ノ廣袤ニ關スル觀念ハ之ヲ以テ有限トナスベク或ハ之ニ反シテ無限トナスベク以テ有極トナスベク或ハ之ニ反シテ無極トナスベシ之ヲ名ケテ純理ノ相反トイフ此純理ノ相反ハ萬種ノ觀念ニ固有ノモノタリ又タ此所以ヲ以テ超絶觀念ニハ唯ダ主觀的ノ應用ヲノミナセリ此主觀的ノ

應用ニシテ客觀ト相致一スルキハ始メテ超絶觀念ノ眞處ヲ得ベシ是レ此ノ如クセバ其觀念ノ昏タニ主觀的ニ正當ナルノミナラス客觀的ニモ正當ノモノトナリ客觀主觀ノ相契合スルハ事物ノ眞處ナレバナリ此二者ノ觀相契合スルノ觀念ヲ名ケテ實際觀念トイフ比ヘハ義務ノ觀念ニ於テハ概念(主觀)ト客觀(人間生計ノ當サニ追究スヘキ行路)ト相致一シ心裡ニ於テ義務ハ遂行スベキモノナリト想考シ實際人生ノ生計ニ於テモ之ヲ可トスルヲ以テ兩者相合同スルカ如キハ此類ナリ又タ神明ノ觀念ハ理論的ニ其眞質ヲ發見セント欲スルハ人間權力ノ薄弱ヨリシテ相反ニ陷ラサルヲ得ス此ノ如キハ超絶

實際觀念

超絶觀念ト

經驗ト相合

同スル之ヲ

實際觀念ト

イフ是レ實

際之アルハ

ケレハナリ

知能論

ニ非スシテ可超絶的ノミ然レモ神明ヲ以テ此宇宙ノ道義ノ秩序及ビ義務ノ觀念ノ創造者トナシテ之ヲ思考スルキハ敢テ誤謬ニ陷ルコトナカルベシ是レ此ノ如キノ問題ハ吾人ノ達シ得ベキ限界内ニアレバナリ
 以上解説スル所ヨリスレバ韓子哲學ノ方法ハ世上一般ニ許容セル某ノ事實ヲ以テ之ヲ初メ其手中ニ落下スルニ隨ヒ之ヲ探リテ其結果關係ヲ查驗スルニアリテ其事實ノ本原ノ奧秘ヲ追究スルコトナキナリ
 請フ是ヨリ一步ヲ進メンニ知識ハ凡ベテ至觀ト客觀則チ心ト物二者ノ契合ニシテ知識ノ運行アルヤ否ヤ直ニ此二者ノ關契アルモノトス故ニ簡短ナル經驗ハ宇宙ノ

恒久ヲ以テ其本原ノ状態ナリトナシ吾カ觀念ハ又々之
 ナ恒久ナルモノト豫定セシナラハ是レ則チ兩觀ノ致一
 ナリ此恒久ハ形而上ニ之ヲ考究スレハ則チ是レ空間ナ
 リ空間ハ觀念ニアラス唯ダ有形ノ宇宙ヲ無形ニ拔萃セ
 シノミ何トナレバ其主觀的ノ知覺悟性ノ觀念ト相關セ
 サルモノニ屬スレバナリ然レモ個ハ感應力ニ從ヒテ後
 來形而下ノ眞理トシテ來タル所ノ道理ニ關シテハ十分
 ナル認識ナリトス故ニ吾人ハ空間ノ存在スル所ノ處ヲ
 知ル克ハス從ヒテ其限界ヲ知ル克ハス其空間ナクシテ
 廣袤アル空處及ビ空間ノ限界等ハ是レ虛偽ノコトニシ
 テ又タ空間ニヨラスシテ客觀ヲ想像セントスルモ得ベ

カラサルベシ是レ知識ハ必ス主客ノ二觀相契合スルヲ
 要スレバナリ
 空間ハ元來有限内ニ廣延セル無限ヲ形而上ニ拔萃セシ
 モノナリ何トナレバ物体ハ必ズ精靈ト相關シテ其成立
 ナ保持スルモノニシテ此二者ハ直ニ悉ク相反ノ性質アル
 モノナラサルモ其物體ノ某ノ性質ハ其精靈ノ某ノ性質
 ニ反スルコトアリ則チ精靈ハ無限無究ニシテ物体ハ有
 限有究ナリ或ハ寧ロ物体ハ特リ更ラニ之ヲ考フレバ反
 面ニシテ其之ニ反對スルモノアルナクンハ之ヲ發表ス
 ル能ハザレハナリ故ニ有形ノ宇宙ハ反對ヲ包含シ空間
 ハ單ニ之ヲ拔萃セシニ過キス其他時間モ亦タ此ノ如ク

唯タ其異ナル所ハ一ハ量ニシテ一ハ質ナルニアリテ空間ノ有限ハ則チ時間ノ變換ニシテ印度ノ古書ニ謂ヘル時ハ物体ト精神トノ契合ナリトハ虚言ニ非ス
 要スルニ以上ノ考究ノ趣歸スル所ハ下ノ一點ニアリ曰ク唯リ超絶觀念ノミナラス最モ普通ニシテ且ツ簡短ナル經驗ハ必ズ悟性ニ反スルモノヲ含ムト之ヲ以テ時間トイヘハ同ジク是レ時間ナルモ已ニ恒久トイフニ反シ空間トイヘハ同ジク是レ空間ナルモ已ニ致一トイフニ反スルモノト知ルベシ子ハ又タ範疇^{カクゴウ}則チ凡ベテ悟性ノ純粹ノ概念ノ歸着スベキ品級ニ於テ之ヲ三者ニ分ナ一二ハ相反ノモノニシテ第三ハ其結果ヲ掲ケタリ則チ其

白紙ノ例ハ
 特殊ト致一
 トノ相反ノ
 一例ナリ

相反ノ和合

分量ノ一端ニ就テ云ヘバ一方ハ一般特殊種分ヲ掲ケ一方ハ致一合同完全ヲ掲ケタリ故ニ「若シ此紙ハ白シ」ト云ハゞ此種ノ紙ニ限レル白ト云フ性質ヲ有スト知ルベシ
 (他ノ凡ベテノ紙ノ反對)其他ノ概念知識ハ皆ナ之ニ准スルモノナリ

然レモ此相反ト此不或可トハ唯タ悟性ニ於テノミ然リ仔細ニ云ヘハ心意ノミ特ニ之アリ元來相反ハ眞ニ宇宙間ニ成立スルモノニシテ之ヲ超絶セサルノ人ハ之ヲ見ルコトヲ得ス而シテ其相反ハ親和總合ニヨリ合同スルモノニシテ實ニ不可思議トモ云フヘク全体ヨリ事物ヲ考察スルノ人ハ容易ニ之ヲ解スルヲ得ベシ然ラハ已ニ

物体ト顯象

夫ノ公孫龍ノ堅白異同ノ辨ハ物ノ質ト物ノ形トヲ區分スルノ點ニ於テハ之ノ論

相反ニアラスシテ觀念必然ノ組織トイフベシ
又タ物体ト顯象トノ區別ハ精細ニ之ヲ知ラサル可ラス
吾人若シ二物ヲ合スルキハ唯タ是レ其外面ヲ接スルノ
ミニシテ其内部ノ致一ヲナス克ハス砂糖ノ如キ水ノ如
キ或ハ油ノ如キ氣ノ如キ之ヲ包含スレバ相合一スルノ
觀アリト雖モ唯タ其分子ノ外面密接スルノミニナリ今マ
此理法ヲ心理的ニ吾人ノ感應力ノ知覺ニ於テ見ハサン
ニ譬ヘハ樹木ノ如キハ之ヲ目前ニ視ルノ後吾人ハ何ヲ
カナスト問ハバ明カニ其色相ヲ見ルニ過キサルベシ然
レモ此ニ眞トニ成立ヲ有スル某ノモノアルヤ否ハ絶對
上ニ其然否ヲ言フ能ハス何トナレハ吾人ノ證トスル所

ト相似タリ

此論ノ大意
物ハ物自ラ
物ヲナスニ
非ス凡ソ物
ノ内質アリ
物ノ外体アリ
リ以テ物ヲ
ナス故ニ石
ノ白キハ色
相ニシテ休
ニ屬ス物ノ
堅キハ性ニ
シテ質ニ屬
ス唯タ其白
キヲ見テ石
トナス勿レ
茲ニ眞ニ内

ハ吾感應力ニ外ナラスノ其感應力ナルモノハ亦タ物ノ
外貌ヲ知覺スルニ過サレハナリ而シテ他ノ智力則チ是
ヨリ更ヲニ別ニ組成セラレタル感應力ニ對シテハ外界
ハ亦タ更ヲニ全ク異ナルモノトナルベシ即チ吾人一見
スレハ初ニ於テハ實ニ全ク吾感應力ニ依頼スルモノナ
リト雖モ而モ人ヲシテ二ト二ヲ合シテ四トナルカ如キ
數理的ノ眞理ニ關セル知覺ト其外界ノ事實ニ關セル知
識トヲ比較セシムルアラバ其外界ニ關セルモノ、薄弱
ナルヲ見ルベシ吾總念ハ某ノ客觀ノ外物ノ色相形休性
質ニ因テ變スルヲ得ルモノトスルモ然カモ二ト二ヲ合
シテ四トナルヲ拒クヲ得サルナリ故ニ吾人ハ客觀ノ事

ニ堅ナル一
性質アリテ
石ヲナスナ
リ然レハ此
堅ナル性質
ハ唯タ我カ
知覺之ヲ覺
取スルノミ
耳目ヲ以テ
之ヲ知ルヘ
キニアラス
則チ之ヲ知
ルハ主觀ノ
ミ

物ノ本体本質ヲ知ル克ハス吾人ノ知り得ベキハ唯タ其
客觀ノ成跡ヲ我主觀ノ形体方規ニ止ムルニアリ
夫レ然リ已ニ謂ヘルカ如ク悟性ハ相互ニ反背アリト雖
モ而モ此反背ヲ以テ全体ヲナスシテ真理ノ一端トナス
ノ理性的ノ感觸アリ而シテ此反對ハ其區域ヲ超絶スル
所ノ悟性ニ屬シ全ク客觀的ニシテ眞ニ我性質ト相連ラ
サル所ノ某ノ事物ハ客觀的ニ之ヲ知ル_レ克ハサルナリ
然レモ此客觀主觀ノ相反ハ全ク悟性ニ服従スルモノニ
シテ反省意識ハ性ニ因リテ之アルヲ要シ又タ之ニ屬ス
ルモノナレモ相反區別ヲ交綏シテ全体ヨリ之ヲ見ルハ
則チ道理ノ特力ト云フベシ故ニ此悟性ノ相反ハ超絶道

聖人達綱繆
周盡一休矣

莊子齊物唯
達者知通而
爲一ト此意
ナリ

判斷力論

理ノ概念ノ眞偽ニ關スルニ足ラス何トナレバ此相反ハ
其超絶觀念ノ要質ナレバナリ之ヲ以テ其相反ハ知識ヲ
難カラシムルモノニ非スシテ万般ノ知識ヨリ以下純粹
ノ知覺ニ至ルマデ皆チ此内ニ包含スルモノナリ
以上ノ論ハ獨逸哲學ニ於テハ凡テ據証アリトナシ論理
學内ニ之ヲ論セルカ其唯一ノ遁路ハ薄弱ノ心力之ヲ覺
ル能ハストナスカ或ハ之ヲ輕々ニ放擲スルトナスニア
リ今マ韓子ノ判斷力論ノ數節ヲ左ニ録ス
吾カ一般ノ認識力ハ之ヲ分チテ二種トナスベクシテ一
種ハ自然ノ觀念ヲ包含シ一個ハ自由觀念ヲ包含ス故ニ
哲學モ亦タ分チテ理論哲學實際哲學ノ二種トナスベシ

吾カ認識力
カ其國有ノ
理法ニ從ヒ
テ認取スル
所ノモノハ
單ニ物ノ顯
象ノミ其形
体ノミ決シ
テ其内質ニ
アラズ須ラ
シ經驗上ニ
之アルベキ
モノニ過ギ
ス

法律ノ法則ハ吾ガ自然ノ概念ニ係リ悟性ヨリ導カル、
ヲ以テ實際ナリ又々自由ノ觀念ヨリ生スルモノハ道理
ヨリ導カル、ヲ以テ理論ナリ認識ノ理法ノ應用セラレ
、所ノ主物ハ單ニ顯象ニシテ思想上ノ或可經驗ノ集蒐
ニ過キス故ニ悟性ノ範圍即チ自然觀念ヨリ生スルモノ
ト道理ノ範圍即チ自由觀念ヨリ生スルモノトハ相同シ
カラス而シテ自然ノ槩念ハ外物自身ヲ將テ直ニ之ヲ知
覺ノ前ニ現出セスシテ單ニ顯象ナルカノ如ク之ヲ將テ
知覺ノ前ニ現出シ自由觀念ハ之ヲ以テ感情ノ目途トセ
スシテ物自ラ之ニ接スルカ故ニ二者ハ相干涉セス此ヲ
以テ兩者共ニ其目途タル物ノ眞質ニ關シテハ理論的ノ

知識ヲ付與スルヲ得ズ個ノ理論的ノ知識ヲ附與スルノ
事功ハ感情以外ノ事ニシテ此ニ關セル觀念ハ固ヨリ經
驗ノ或可ナルコトノ基本ト假定セサルヲ得スト雖モ亦
タ決シテ之ヲ廣メテ認識トナスヲ得ス今マ自然(感覺以
内ノモノタル)ノ槩念ノ範圍ト自由(感覺以外ノモノタル)
ノ概念ノ範圍トノ間ニ一大溝渠アリテ相互ヒニ干涉ス
ルヲ得スト雖モ而カモ此ニ後者ハ前者ニ對シテ力ヲ振
フノ義アリ仔細ニイヘバ自由ノ概念ハ其推論ノ理法ニ
由テ求メタル目途ヲ將テ之ヲ感應力ノ内界ニ實ニスル
ヲ得ベシ故ニ自然ハ自由ノ理法ニ順シテ感應力ノ内界
ニ於テ成就スベキ目途ト相致一スルノ義アリ故ニ又々

是レ欲傑見
子。勢麗非子
等ノ道樞論
ノ原始ナリ

感應以外ノ自然ノ基本ト自由ノ原理トノ間ニ合同ノ本
地ナカル可ラス此ノ如キノ理由ハ吾人理論或ハ實際ニ
於テ十分之ヲ認識スルノ機會ニ遭ハサリシト雖モ請フ
試ニ之ヲ論セン
然リト雖モ人間ノ高尙ナル認識力ノ内ニハ悟性ト道理
ヲ致一スルノ縁アルアリ則チ判斷力是ナリ此判斷力ナ
ル心ニ關シテハ吾人故ヲニ之ニ固有ノ原理アルノ論ヲ
持セリ何トナレバ心ノ能力ハ凡テ別チテ三トナスベシ
曰ク認識力。苦樂ノ感情。志望是ナリ認識力ノ理法ハ唯リ
悟性ニ由テ之ヲ得志望ノ理法ハ道理之ヲ爲ス此悟性道
理ノ理法ニ由テ得タル結果ノ是非ヲ判センカ爲メ苦樂

ノ感其ノ間ニ横ハル故ニ是非ノ心則判斷ノ力ハ其物自
ラ先天ノ原理ヲ有ツモノトナスモ理ノ當サニ許ス所タ
リ又タ苦樂ノ志望ト相關係連續アルハ必然ノ成果ナル
カ如ク悟性ト道理モ又タ必ズ相關係連續セサルヲ得ズ
此二者ノ相類似スルハ吾人日常ノ行動ニ於テ之ヲ見ル
ベク自然或ハ人工ニ成ル所ノ某ノ物体ヲ取テ道義上ノ
是非ヲ假定スルニ類セル名辭ヲ用ユルヲ見テ之ヲ知ル
ベシ比ヘバ樹木ヲ取リテ高莊或ハ清淨等ノ文字ヲ使用
シ原野ヲ形容スルニ快活或ハ幸福等ノ文字ヲ使用シ或
ハ色相ヲ形容スルニ神聖。溫和。中庸等ノ名辭ヲ使用スル
カ如シ

判斷力ニハ
決定判斷ト
反省判斷ノ
別アリ

判斷力トハ特殊ヲ以テ一般ノ中ニ包容セララル、モノトシテ之ヲ享クルノ謂ニシテ因テ以テ特殊ノ是非ヲ判スルノ一般ハ(即チ原理法規)ハ之ヲ決定ト名ケテ因テ以テ一般ノ是非ヲ判スルノ特殊ハ之ヲ名ケテ反省トイフ決定是非ハ唯タ先天ニ得タル理法即チ悟性ニ因テ得タル一般超絶ノ法規ニ服スルニ特殊ヲ以テスルモノナリ故ニ反省決定乃チ特殊ヨリ一般ニ及ボスヲ本分トスル所ノ是非ハ原理ヲ欠クモノニシテ又タ之ヲ經驗ヨリ導クヲ得ズ何トナレハ其真正ノ目途反省決定ノハ經驗ニアルニ似タレモ爾カモ猶一層高遠ナル原理ノ下ニ經驗ヨリ得タル原理ノ致一ヲ建定シ此ノ如クシテ之ヲ万物

ニ及ハシメテ一般ヲ規制セントスルニアレバナリ今マ宇宙ノ大法ハ(顯象成立ノ状態タル時間空間)其基本悟性ニアルヲ以テ疑問ノアル所ハ此ノ如キニ過サルベシ曰ク特殊乃チ經驗上ノ理法(其一般ノ理法ニ由リテ決定セラレサル間)ハ悟性ニ因テ自然モ此ト相關與スルカ如ク又タ經驗上ヨリ得タル方式ヲシテ特殊ノ自然ノ理法ニ從フヲ得セシムルカ如ク考察スルヲ得ルモ此ノ如キ悟性ハ實ニ假定セサル可ヲサルカ如ク考察スルヲ得ス何トナレハ個ハ唯ダ反省判斷ニシテ此觀念ヲ原理トスルヲ要スル所ノ決定判斷ニ非レバナリ今マ物体ヲ眞實ノ成立アルモノトナシ之ニ關シテ概念ヲナスヲ目途トイ

ヒ其特殊ノ物ヲ目途ニ應用スルコトニノミ因テ爲スコ
 トヲ得ル所ノ物ト物トノ眞質ノ和合ヲ名ケテ形体ノ適
 應ト呼ブカ故ニ經驗ノ理法ノ下ニ事物ノ形体ニ關セル
 判斷ノ原理ハ則チ是レ自然ノ多數ガ相適應スルモノト
 イフベシ仔細ニイヘハ自然ハ其經驗上ノ多種ノ理法中
 ノ致一ヲナスノ原理ヲ包含スル所ノ悟性アリトナスヲ
 得ベシ又タ此自然ノ適應ハ其原ヲ唯一ノ反省判斷ニ存
 スルヲ以テ名ケテ先天ノ種別ノ概念トイフモ可ナラン
 何トナレハ經驗ノ理法ニ因テ得タル顯象ニ關係連帶シ
 テ自然ヲ考究スルノ當頭ニ於テ此知覺ヲ得ベケレバナ
 リ自然適應ノ此超絶觀念ハ吾カ自然概念ニモ属セス又

タ自由觀念ニモ属セス何トナレハ此概念ハ其原ヲ物体
 乃チ自然ニ歸スルコトナクシテ單ニ此ヨリ其經驗ノ完
 全ナル合一方式ニ由テ自然ノ物体ヲ考究スルノ道ヲナ
 スノミナレバナリ是レ則チ判斷力ノ主觀的ノ原理ナリ
 悟性ハ眞ニ先天上宇宙ノ大法ノ有スル所ニシテ之ナク
 シバ自然ハ經驗ノ目途タルコト克ハサルナリ然レモ特
 殊ニ關スルノ點ニ於テ宇宙ノ法規中ニハ自ラ某ノ秩序
 アリテ唯タ經驗ニ因テノミ之ヲ知ルヲ得ベキモノアル
 ナ要ス仔細ニイヘバ悟性ハ其現ニ成立シツ、アルヲ知
 ルモ其何故ニ成立スルカトイフコト則チ其原理ヲ知ル
 コト克ハス此ノ如キ吾カ認識力ト宇宙トノ和合ヲ吾カ

判斷力ハ見テ以テ先天ニ宇宙ヲ查驗スルノ基本トナセ
 リ故ニ判斷力ハ自然ノ或可ナルコトノ先天ノ原理ノ有
 スル所タリ然レモ唯タ是レ天地ノ理法カ因テ以テ自然
 ナ考察スル所ノ主觀的ノモノタリ以上ハ韓子判斷力論
 ノ總論ヲ拔萃セシモノナリ請フ之ヨリ端ヲ變ヘテ更ラ
 ニ子ノ論ヲ彰ハサンニ吾人若シ子ニ質スルニ思考ノ主
 題目ハ直ニ顯象ノ全界ヲ生スルモノナリヤ或ハ物体直
 ニ之ヲ生スルモノナリヤヲ以テセバ必ス二個ノ要素ノ
 中一個ノミ發動スルモノニ非ス二個共ニ發動スルモノ
 トナスナラン一個ノ物ヲ組成スル分子ノ關係契合モ又
 タ此ノ如クナルベシ韓子ハ物ヲ組成スル要素ノ一個ヲ

形体ト呼ビ一個ヲ眞質トイヘリ是ヲ知ルハ是レ内界知
 覺ニ在ルカ故ニ之ヲ感覺ノ料トイフ故ニ今マ此ニ外物
 アルナクンバ此ニ顯象アルナシトナスベシ然レモ茲ニ
 顯象アルモ之ヲ知ルノ悟性ナク又タ其顯象ノ個々ハ皆
 ナ人生ノ内界ノ性質ニ於テ之ヲ知ルノ便タル一致ノ共
 同點アルナクンバ以テ經驗ノ料ニ供スベカラズ之ヲ仔
 細ニ反對ニイヘバ人生ヲシテ顯象ヲ以テ經驗ノ料トナ
 シシムルニハ悟性ヲシテ之ヲ記セシムルニ足ルノ秩序
 ニ排列セサル可ラス万物ニ關セル總念ハ先天ニ其眞質
 ナ知ルモ先天ニ其成立ヲ證スル克ハス吾人ハ万物ノ代
 現ヨリ延キテ事物ヲ眞ナラシムル克ハサルナリト

是レ眞トニ定説ナルカ如シト雖モ吾人ノ目前ニ現出シ
 テ疑フ容カラサルノ眞理ヲ以テ之ヲ吾人ニ知ラシムル
 ニ過キスシテ到底此ノ如キ眞理ノ往クヲ得ル所ハ則チ
 精細ニ有限ナル物体ノ偶然成立ニ達スルニ過キス仔細
 ニイヘバ吾知覺ノ達スルノ點ニ止マルモノニシテ天地
 ノ大法ニ合スルモノニ對シテハ此經驗的ノ論ハ吾人ニ
 何等ノコトヲモ教ユル克ハサルナリ元來絶對上必然ニ
 シテ古今一般万人ノ諾シテ動カス可ラサル眞理ハ吾ガ
 思想力ノ外之ヲ原ヌベキモノアルナシ故ニ一ビ某ノコ
 トヲ是非スルキハ其後來ニ起コル所ノ同一ナルコトニ
 其是非ヲ應用スルヲ得ベシ譬ヘバ万人一樣ニ有スル所

盲フ心ハ凡
 人ハ比ヘハ
 着色ノ眼鏡
 ヲ以テ物ヲ
 見ルカ如シ
 是レ經驗ヲ
 基トスレハ
 ナリ哲學者
 ノ如キハ思
 想力ヨリ事
 物ヲ見ルヲ
 以テ比ヘハ

ノ肉眼ト生來固有ノ某ノ着色眼鏡トヲ以テ一物ヲ見ル
 ノ光景ヲ比較セヨ吾人若シ此眼鏡ヲ人性ノ組織ニ譬フ
 ルニ何ヲ以テカ人生一般ハ單ニ此眼鏡ヲ用ヒサル可ラ
 ストナスカ又タ哲學者ノ如キハ何ヲ以テ肉眼即チ悟性
 ヨリ見ル所ヲ以テ之ヲ人ニ強ユルヲ得ルカ是レ明カニ
 知ル眞理ヲ知ルハ心裡ノ主觀的ニアルヲ此ノ如キ事例
 ニ於テハ眞理ト或可トハ其代現或ハ想像ト其外物トノ
 一致ニ存スルコト夫ノ代現ノ遍通必然ト人間悟性ノ代
 現トノ相致一スルヲ要スルカ如クナラス韓子ニ從ヘバ
 吾人ハ單ニ人ハ如何ニシテ必ス自己ノ心裡ニ外物ヲ代
 現セサル可ラサルヤヲ知レリ然レモ其代現セル物体ハ

肉眼ヲ以テ
物ヲ見ルカ
如シ此ノ如
クシテ哲學
者ノ論ニ世
ノ凡人服ス
ルハ何ノ故
ソヤ唯々其
肉眼以テ物
ヲ見思想以
テ事ヲ見ル
ヲ以テナリ

代現セル顯象ト相同ジキヤ否ヤハ吾人ノ知ラサル所タ
リ然レモ人性ノ薄弱ナル此ヲ以テ満足セサル可ラス嗚
呼吾人ハ此ヨリ一步ヲ進ムル克ハサルカ思フニ人ノ外
物ニ對スルヤ如何ニシテ其我ニ代現スルヤヲ知り其外
物ノ表顯ヲ以上ニ記載セル悟性ノ肉眼ニ因テ看破セル
想像ト共ニ之ヲ得タリ然レモ我ニ對スルニ方リテハ
僅カニ我ト外物トノ關係ヲ知ルニ過キス僅カニ如何ニ
外物ニ從ヒテ自己ヲ處スベキヤヲ曉ルニ過キス如何ナ
ル想考ヲ始ムルモ到底感覺ニ由テ見感セサル可ラス吾
人カ事物ヲ見テ之ニ因テ感動ヲ惹ク所ノ外物ハ吾人之
ニ接シテ其實ニアルコトヲ知ルト雖モ之ヲ知ルノ感ヲ

起ユスハ則チ是レ感覺ナリ感覺ハ其本原主觀的ニシテ
爾カモ有形ノ質ナリ
以上ハ韓子方式ノ概見ナリ是ヨリ眼ヲ轉ジテ其最モ必
要ナル論點ヲ猶ホ一層精細ニ查驗セントスルニ子ノ事
業ノ他ニ異ナルト同時ニ其言論モ亦々特質ニシテ其言
フ所ニヨレハ從來ノ獨斷哲學ニ反對スルノ意趣アルカ
如シ所謂ル獨斷トハ據証ナキ主張並ニ無識ナル習慣古
語ヲ基本トセル論斷ヲ云フ畧言スレバ精細ナル據証ヲ
有セル論斷ノ反對ナリ然レモ韓子ノ目途ハ他ニアリシ
カ如シ蓋シ當時澳爾府派ノ性理學者ハ皆ナ古語論ヲナ
サズリシト雖モ認識ノ標準トシテ論理學及ビ數理學ヲ

使用シ之ヲ尊重スルコト甚シキモ未ダ其學ノ精細ナル
 範圍組織ヲ量ヲサルノ弊アリ此等ヨリ遂ニ拓仁斯瀑ノ
 聖人ノ心ヲ動カセシナラン其勉ムル所ハ顯象界ノ制限
 ナ以テ之ヲ感情ノ下ニ破壞スルニアリ名ケテ批評哲學
 ノ第二目途トイフベシ

韓圖子又タ曰ク經驗ハ直接ノ知覺ニ因テ其已ニ目前ニ
 現ハル、モノ、ミナラス此物ハ又タ他ノ多數ト相結合
 シ又タ更ラニ相結合シ此ニ至リテ顯象ノ一連續ヲ組制
 シ是ニ至リテ物質並ニ形体ノ連合ヲナスヲ暗示セリ此
 連合ハ吾人再ビ其固有ノ分子ニ解散スルヲ得ベシ凡ベ
 テ体ハ廣狹アリトイフト凡ベテ体ハ重量アリトイフト

ハ同シカラス何トナレハ輕重ノ概念ハ形体ノ概念ニ關
 セサレハナリ以上ノ解剖判斷ハ唯タ從來曾テ有リシコ
 トヲ解説セシノミ未タ新ニ擴充スル所アルニ非ス然レ
 現ニ在ルモノヲ超絶シタル論理學ノ道途ヲ經テ吾カ
 知識ノ廣袤ヲ論セリ則チ未ダ曾テ感覺ニ表顯セサル所
 ノ處ヲ論セリ何トナレハ神明不死自由等ノ論ハ永ク反
 省ヲ要スルノ題目タレハナリ今マ吾人ハ論理學上ノ判
 定ヲ以テ先天ニ擴充判斷ヲ得或ハ客題目ト主題目ノ相
 連結スルヲ安セサル所ノ判斷ヲ得バ吾人ノ欲スル所ノ
 哲學ノ眞問題ニ達スルコトヲ得シ則チ第一ニ万物ノ内
 部ノ關係ヲ了解スルヲ得バ經驗ノ原野ヨリ超絶ノ範圍

ニ石橋ヲ通スルヲ得ベシ
 以上ノ理由ニ因リ韓子ハ曰ク事物關係上ノ問題ハ如何ナル程度ニ達スベキヤト吾人ハ容易ニ知ルヲ得ベシ此問題ニ於テ韓圖子ハ人ノ先天ノ想考ハ如何ナル程度ニ及ブヲ得ルモノナルヤト云フニアルヲ何トナレハ想考トハ先天ノ擴充判斷ニ由テ眞理ヲ穿鑿スルモノニ他ナラサルヲ以テナリ而シテ韓子ノ自答ハ之ヲ或可經驗ノ表詮ノ外ニ排出シ遮詮ノ性質ノ超絶ノ範圍内ニ置ケリ此二個ノ判決ノ原理ハ明ニ批評論ノ二個ノ最大目ニ從フモノナリ何ソヤ即チ超絶論理敏辨論法是ナリ仔細ニイヘバ即チ先天ノ總合(分子ノ集蒐)ナクンバ如何ナル經驗

モ之アルコト克ハス結合意識ハ之アル能ハス然レモ事實ニ於テハ個ノ意識之アリ故ニ其假定ハ十分ニ其効アリトス然レモ此總合ヲ超絶ニ應用スルアルモ直ニ反對ノ結果ヲ生スルヲ避クル克ハサルナリ
 飛子ノ言フ所ニヨレハ經驗ノ範圍ハ唯タ人間ノ悟性ガ顯象ヲ見ルト共ニ之ト連結セルモノトシテ考察スル所ノ原因結果ノ關係ノ概念ニ過キス然レモ此關係ナルモノハ吾人カ外物中ニ此事アルヲ知ルヲ信スル所ノモノノミニ非スシテ其外物中又タ各々此關係アリ互ニ要素性質ヲナシ一致ヲナス吾人種々ノ代現中如何ナル部分カ外物カ吾人ニ附與セル感動ニ屬スルカヲ知ランカタ

ヲニハ其總体ヲ知ルヲ要ス韓子曰ク感覺ハ一個人代現
 ノ材料ヲ供出シ悟性ハ代現ノ因テ連續一致スル所以ノ
 關係ト形体ヲ附與スルモノナリ又タ曰ク最モ普通ニシ
 テ且ツ高尚ナル概念ナルモノハ感覺ノ經驗ト全ク其本
 原ヲ異ニセサル可ラス個ハ是レ自ラ生スルモノニシテ
 凡ベテ思考認識ニ於テハ普通ニシテ必然ナルモノナリ
 ト而シテ此普通ト必然トノ標準ニ由リ子ハ又タ其主觀
 的ノ性質ニシテ人ノ先天ノ認識力ニ存スルヲ論斷セリ
 然レモ吾人ハ遍通關係トイヘル概念ヲ以テ彼ノ原因結
 果ノ說ノ如ク凡ベテノ反省ニ先テ容易ク先天ニ人間
 ノ意識ニ出現スルモノトナスベカラス畧言スレハ固有

ノ概念觀念トナス可ラス何トナレハ心裡ニ固有ノモノ
 ハ唯タ事物ヲ認識判斷スルニ使用セル方法ノ外之アル
 ナケレハナリ之ヲ以テ吾人若シ某ノ物ヲ認識シテ之ヲ
 判斷スルコトアラハ心ノ及ブ所ハ之ヲ放テ之ニ從ハサ
 ル可ラス無智ノ小兒未ダ曾テ形而上ノ總念ナキモノト
 雖モ克ク之ヲ認識シ或ハ判斷スルヲ得ベシ
 故ニ吾人ハ吾カ心ヲ放テテ外物ヲ逐ハシムルヨリ外物
 ノ互ニ關係シ互ニ原因結果トナリ其所作ハ自然ニ起コ
 ルモノトナセリ此見解ハ是レ吾人ノ教育已ニ發達シ反
 省已ニ作ヨリ意ヲ心ノ發動ニ注キ我已ニ我ヲ形而上ニ
 知ルニ際シ吾カ無限觀ノ必然ノ理法ニシテ悟性其物ハ

連續關係ト
ハ原因結果
或ハ論理學
上ノ客命題
主命題トノ
關係連續チ
イフ
言フ心ハ判
斷トハ已ニ
吾ガ心裡ニ
曉會セル一
個ノ事物チ

自己ノ運行ノ此法ヲシテ注意ノ目途形而上ノ概念トナ
ラシム然レモ個ハ決シテ布刺多濕アガ加土輩ノ所謂ル固有
ノ認識或ハ觀念ト混同スヘカラス
韓子曰ク吾人ハ今マ全ク悟性ハ如何ニシ此ノ如キ連續
關係ノ數多ノ方法ヲ有スルヤ此ノ如キ本原ノ總念ハ如
何ナル程度ニ及フヘキヤ個ハ唯ダ論理學ガ吾人ニ指示
セル判斷ノ方法形体ヲ見テ之ヲ知ルヘシ何トナレハ判
斷トハ已ニ代現セル一個(主題目)ト他(客題目)トチ連續關
係セシムルニ外ナラサレハナリ今論理學ハ吾人ニ言ヒ
テ曰ク茲ニ全体ノ上ヨリ云ヘハ判斷ノ方法十二アリト
然ラ悟性ハ其散亂セル代現ヲ集拾スルニ十二ノ形体

取り之ヲ他
ニ比較シテ
其然不ヲ判
定スルノ謂
ナリ是レ萬
物ハ皆通有
ノ性アレハ
之ヲ以テ彼
ニ通スヘク
レハナリ

アリトスベシ吾人如何ナル物体ニ遭フモ之ヲ形而上ヨ
リ見テ其主命題則チ原因ト客命題則チ結果トノ間ノ關
係ヲ觀レハ直ニ之ヲ判斷スルヲ得ヘシ譬ヘハ雷鳴ヲ聞
ケハ即チ直ニ其電光アリシヲ知ルカ如シ此際ニ於テ雷
鳴ハ客命題ニシテ電光ハ主命題ナリ此ノ如ク其結果ヲ
見テ其原因ヲ知ルカ如キ人其必然ノ關係アルニ依頼ス
ルモノニシテ假定判斷法ナリ此種ノ判斷法ノ數ハ十二
アリトス

此論理學上ノ十二論斷法アリ又タ悟性ノ本原ニ於テ類
似ノ十二總合ヲ定ムルヲ得則チ一致多數完全眞實遮詮
制限實體由因互相ノ作爲蓋然必然現在是ナリ此ノ如キ

カ故ニ此理法ヨリ隔絶シタル悟性ハ其實全ク空漠ナル
モノトス而シテ茲ニ眞ニ物アルヤ否ヤハ之ヲ判斷悟性
ニ因テ證スル克ハス何トナレハ好シ此二者ニ由テ其ノ
物ノ三角或ハ四角ナルコトヲ證スルモ其證ハ唯タ此ノ
如ク余ハ思想スト云フニ過キスシテ決シテ眞ニ然リト
云フヲ得サレハナリ要スルニ各判斷ノ旨意ハ此ノ如キ
ニ過キサルナリ曰ク

若シ此ニ白アラハ

然ラハ此白ハ白ナラサル可ラス

凡ソ此ノ如クナラスンハ論斷スヘカラス此ノ如ク論斷
シ得ルモ論斷シ得ルトイフコトハ眞實ナリトイフト同

シカラサルナリ

此ノ如キカ故ニ万物ノ眞質ノ成立ハ決シテ絶對悟性ニ
因テ證スヘキモノニ非ス唯ダ經驗ニ由テノミ之ヲ觀ス
ヘキガ如シ爾カモ其經驗ノ本原ハ之ヲ悟性ニ歸セサル
ヲ得ス然ルニ不幸ナルカナ韓子ハ其論斷ノ初ニ於テ感
應代現ノ本始ヲ跡ヌルニ際シ某ノ心ノ能力ヲ以テ之ヲ
靈魂上ノ感動ノ或可ナルコトニ起因スル說ヲナサ、リ
シヲ蓋シ子ハ此時ニ方リテ祿苦子等ト共ニ遮詮的ニ此
ノ如キ心ノ直覺ノ成立セルコトヲ證スルヲ以テ足レリ
トナセルカ故ナリ然レモ子ハ万般ノ疑問ヲ可超絶トナ
シテ之ヲ論シ其本原ノ感動ニ開シテハ之ヲ論究シテ殆

ント餘蘊ナキニ至ラシメタリ故ニ邪呼妮子ノ曰ク此ノ如キ本原ノ考究ヲ基トシテ立論スルニ非ンバ韓子ノ方式ヲ窺フヲ得スト

意識トハ何ソヤノ疑問ヲ決セスシテ韓子ハ之ヲ以テ自ラ之ヲ發生セシモノトナシ之ニ關シテ總念ヲナシ單ニ何物カ萬物ノ眞實ニ於テ感覺上ニ經驗タルヲ得ベキカ何物カ先天ニ主觀的ノ性質ナルヤヲ論究シ之ヲ以テ其基本悟性ニアリトナセリ

要スルニ吾人ノ見解ヲ以テスレハ韓子ノ批評式ノ一般ノ性質ハ心ヲ意識ノ顯象ノ默想尋思ニ限界シ吾槩念ニ關セスシテ靈魂ノ能力ヲ解剖シテ知識ニ關セル不變必

然ノ原理ヲ定ムルニアリ人心ヲ以テ其方式ノ中心トナスヲ以テ之ヲ廣闊ナラシメ之ヨリ推論シタル成果ニ由テ之ヲ限制シ又タ獨斷思考ノ精神ヲ弱メテ單ニ智力上ノ觀念ニ由テ万物ノ解釋ヲナサントスルノ非望ヲ除キ哲學界ニ供スルニ豐饒ナル田野ヲ以テセントセルモノナリ嗚呼韓子ノ功アル此ノ如シ然ルニ後人些ノ瑕瑾ヲ執リテ之ヲ非セントスルモノアリ是レ殆ンド韓子ガ必然死スベキノ人生タルヲ知ラスシテ神ニ望ムモノヲ以テ之ヲ子ニ責ムルカ如キノミ然リト雖モ人ヲシテ神ニ望ム所ヲ以テ之ヲ人ニ望マシムルニ至リシハ是レ則チ子ガ十八世紀百億ノ人ニ冠タルノ致ス所ニシテ畢竟子

ノ名譽トイフヘキナリ

如安、吳度利武、非低子

千七百六十二年上流沙智邪ノ郎無意ニ生ル初メ是那
及ビ理府疾苦ノ大學ニ在リテ歷學セシカ後十數年ノ
間露西亞瑞西蘭ニ居ル千七百九十三年是那ノ哲學博
士トナリ幾モナクシテ帷ヲ伯林ニ下シテ哲學ヲ講セ
シカ千八百十四年同處ニ死ス其目的ハ批評哲學ヲ以
テ最モ廣闊ナル原理ニ基キテ一個ノ科學トナシ以テ
懷疑說ヲ破却シ既往將來ノ誤膠ヲ除去スルニアリ其
說極メテ急激ニシテ古來希有ノ哲學者タリ

非子哲學方式之基礎

世人ノ唱道スル所ニヨレハ吾人カ外物ヲ覺取スルハ其
外物カ挑發提起スル所ノ觀念ニ由ルトイヘリ然レモ此
假定ハ意識ノ事實ニ於テ許容セサルヲ奈何ニセン吾人
ハ吾人ノ心意ニ於テ某ノ觀念ヲ有シ此觀念ハ固有唯一
ノモノタリ若シ此觀念ヲ解釋セントセハ我ニ由テ發生
スルモノトナスカ或ハ我ヲサル外物ニ由テ發生スル
モノトナスカ兩者其一ヲ擇ハサル可ラス
韓子ハ偏僻ノ觀念派ニ同スルヲ好マス且ツ云フ吾人ハ
如何ニシテ我自ラ我ヨリ我ト相隔ツル所ノ觀念ナルモ
ノヲ發生セシムルヲ得ルヤヲ知覺スル克ハス又タ「我ヲ
ラサルモノ」ノ成立ヲ假定(證據ナク)シテ之ニ關シテ何等

言フ心ハ物
 我待代万態
 紛糾我物ヲ
 知ラズ物我
 ヲ知ラズ然
 レハ我ハ物
 ノ我意識ニ
 接スルノ頭
 ニ於テ之ヲ
 知ル

ノ知ル所アルナシト是レ明カニ祿苦子ノ説ヲ祖述スル
 モノニシテ諸家ノ論多ク此ニ出ツ非低子曰ク然リ吾人
 ハ「吾ナラサルモノ」ニ對シテ何等ノ知ル所アルナシ吾人
 ハ唯其我ヲ經過スル所ノモノヲ知ルノミ唯タ吾ガ即チ
 意識スル所ノモノ、ミ之ヲ知ルヲ得然レモ意識中ニハ
 元來一個ノ外物アルナリ之アルモノハ唯タ觀念ノミ思
 フニ吾人ハ我ナラサルモノ、成立セルコトヲ假定スル
 ハ是レ本眞ノ理法ニ迫逼セラレ、モノナリヤ吾人ハ此
 觀念ハ我ノ外ニアリテ我ト相隔絶セル某ノ物ニ關スル
 想像タルコトヲ主張スルハ是レ本眞ノ理法ニ逼迫セラ
 ル、モノナリヤ曰ク是レ我カ心意ノ組織ヨリセル必然

悉多太子、問
 阿羅邏仙人、
 以離苦就樂
 之道、仙人答
 曰、衆生之初
 始於冥初、從
 冥初起我慢、
 從我慢生痴、
 從我痴生癡、
 染變云々於
 此流轉於生
 死之海、欲斷
 生死之本、出
 家持戒云々

ノ結果タリ此我ナラサルモノハ吾カ道理ノ假定ニ他ナ
 ラサルナリ故ニ又タ我ノ生スル所ノミ亦タ我レ吾カ必
 要ノタメ之ヲ創メシノミ要スルニ意識中ニハ唯タ觀念
 アルノミ觀念ノ他カ之アルナシ抑モ此觀念ハ我自動力
 ノ生ム所ニシテ夫ノ世人ノ云カ如ク我ノ受動力ヨリ生
 セシモノニ非ス何トナレハ元來人ノ靈魂ハ自動的ノモ
 ノニシテ受動的ノモノニ非レハナリ若シ然ラスシテ活
 潑々ノ自動ノモノニ非ズンハ萬般ノ知覺ハ之アルヲ克
 ハサラン請フ之ヲ玉石ニ見ヨ玉石ノ粲然タル人目ヲ眩
 射スルアルモ其内質果シテ知覺アルカ花瓶ノ光彩四邊
 ニ輝クモ之ニ描置セル草木ヲ知覺スルコトアリヤ

離種々相入、非想非々想、處、斯爲究竟、解脫是諸學、者之彼岸也、云々、太子又、問曰、非想非、々想處、爲有、我乎、爲無我、乎、若爲無我、不應言非想、非々想處、若、爲有我、爲有、知乎、爲無知、乎、若我無知、則同木石、我、若有知、則有、樂着、故非解

脫云々、

意識ハ其本眞ノ要素ヲ見レハ元來自動的ノモノタリト好シ然ラハ若シ其自動力ヨリ想像ヲ生シ其本元ノ理法ニ因テ其想像ハ固有ノ本体ヲ有スルコトヲ決定スルコトアラハ此決定主張ハ何故ニ自動ヲ有セル靈魂ト形体方式ヲ異ニスルヤ若シ我自ラ其万化ヲ識リ且ツ此万化ノ起因外界ニアリトナサバ爾ヲ得サルアラハ此万化ヲ我ノ行爲トナサスシテ外界ニ起因ストナスノ行爲ハ何物カ之ヲナスヤ意識ニ於テ他ノ万化ヲ起コスモノアリヤ

朱子曰ク或人云フ我ハ本体ヲ知ル克ハス吾知識ハ凡テ偶然ノモノタル顯象ニ限界セララル、ト然レ子ハ此偶然

顯象ノ基礎トシテ其本体ヲ主張スルノ已ムヲ得サルニ遭遇セリ若シ子之ヲ知ル克ハストスルモ子ノ道理ノ成果タル子ノ主張ハ我ノ自動力ノ別ノ形体タルニ他ナラス個ハ是レ今マ其言語ヲ主張スル所ノ汝タルノミ汝ハ自ラ汝ノ本体ト呼フ所ノモノヲ主張セルナリ本体ハ偶然ノ総合ノミ之ヲ総合スルハ心裡ノ力ナリト此ノ如クシテ非子ハ觀念ヲ意識ノ基礎上ニ建定セリ爾ノミナラス我ヲ以テ自動的トナシ其運動ハ万般ノ知識ヲ生スルモノトナセリ

夫レ以上ノ論ヨリスレハ我ノ自動的タルハ固ヨリ一個ノ假定主張ノミ然レモ此ノ如キ假定主張ハ理學ノ組織

ニ於テ極メテ要緊ノコトタリ而シテ其我ヲラサルモノ
ノ成立ハ我ノ生スル所タリトノ主張ヲ許容スルキ下ノ
結果ヲ生スヘシ曰ク

今マ茲ニ万人共ニいはいナルコトヲ許容スルアリ是レ
眞覺的ニ知ルヲ得ルノ單元ニシテ更ラニ據証ヲ要セサ
ルモノタリ之ヲ名ケテ絶對上合一ノ命題トイフ是レ絶
對上ニ眞ナルモノニシテ此其絶對上ニ眞ナルコトヲ知
ラシカタメニハ之ヲ絶對ノ眞理ヲ知ルノ力アル心意ニ
訴ヘサルヘカラス
然レモ比へいはいナルコトヲ表詮スルモ必シモ其實際
ニ成立セルコトヲ主張スルモノニ非スシテ單ニ若シい

ナルモノアリテ成立セハ然ラバ此いはいナラサル可ラ
ストイフニ過キス初ヨリ其有無ヲ論スルニ非ス然レモ
茲ニ然ラハト若シトノ間ニ必然ノ關係アリ今マ假リニ
此關係ヲはト名ケンニ此はモ又タ我ヨリ生セルモノニ
シテ唯タ我アリテ而シテ後チ之アルニ過キスいはいナ
ルコトノ單元ヲ判定スルニハはノ力ニ由ラサル可ラス
此はハ又タ我ヨリ生ズルモノタリ

吾人今マ茲ニ爆加土子カ萬般判定ノ基礎トシテ供出セ
ル古語我ハ今マ思考ス故ニ我ハ成立ス」ヲ查驗センニ我
ハ自ヲ表詮スルモノニシテ吾人若シ我ハ我ヲ表詮スト
イフキハ意識ニ於テ自己ノ成立ヲ表詮スルモノニシテ

此意識ノ表詮ハ是レ我ノ成立ノ状態ナリ故ニ我ハ自動力ニシテ又々時ニ自動力ノ生スル所タリ要スルニ非低子カ勉ムル所ハ思想ト實在即チ成立ト意識外界ト内界トノ契合即チ道樞ヲ定メントスルニアリ而シテ子ハ遂ニ我ヲ以テ自動力トナシテ之ヲ決定スルノ功ヲ遂ゲタリ

是ヨリシテ結論シテ曰ク人生ノ眞ノ決斷力ハ思想ニアラスシテ思想カ實覺セラレ、所ノ一ノ行動ノミ曰ク我ハ自由ナリ我カ價值ヲ定ムルハ單ニ我ノ所作タルノミナラス亦々我ヲシテ吾カ良心ノ命令ニ服セシムル所ノ吾カ意志ノ自由決斷ナリ今マヤ現往ノ世界ヨリ尙ホ美

官ヲ心ハ從來ノ實驗說ハ心意ヲ後コシテ外界

ヲ先コスレ
比余ハ外界ヲ捨テ、心意即チ内界ヲ取ルノ意ニシテ此ニ心意ノ状態ヲ説ク

麗壯嚴ニシテ且ツ恒久無限ナル世界アリテ吾カ前ニ現出シ其秩序ノ本原ノ理法ハ猶ホ精細ニ吾カ心裡ニ擴被シ吾意志ハ唯リ其靈魂ノ暗淡タル深底ニ伏匿スルカ故ニ現住ノ世界ニ於ケル諸般ノ行動ノ如ク精靈ノ見ル可ラサル範圍ヲ經過シテ廣延セル成果ノ首タリ而シテ物體ニ波及セル某ノ行動ハ全体ノ方式ヲ包含セル原因結果ノ有形上ノ連續中ノ首タリ抑モ意志ノ精靈界ニ於ケル比ヘハ運動力感覺界ニ於ケルカ如クニ有力ノ原因タリ又々有効ノ原理タリ凡ソ我ハ兩個ノ世界ニ存在スルモノニシテ一ハ見ルヘキノ世界ニシテ一ハ見ル可ラサルノ世界タリ而シテ見ルヘカラサルノ世界ニハ唯々意

志ニ由テ成立スルモノタリ然レモ此兩世界共ニ我ハ極
 メテ有効ノ勢力タリ元來有限ノ心意カ唯リ之ヲ覺取ス
 ルヲ得ルモノタル神幽界ノ成立ハ人間自ラ之ヲ製作ス
 ルモノタリ畧言スレハ自ラ自己ノ意志ヲ代現セルモノ
 タリ唯タ之ヲ被フニ夥多ノ感情上ノ形体ヲ以テシテ我
 ト宇宙トノ兩間ニ洪波ヲ揚ケテ俗眼ヲ遮礙セシニ過キ
 ス嗚呼吾人ハ此洪波ニ由テ其眞体ヲ見ル克ハス亦タ悲
 ムヘシ思フニ死生ハ一變化ノミ万物ノ其元ニ歸スルノ
 ミ故ニ万物此ニ滅シテ亦タ忽チ此ニ現ハル是レ皆チ心
 意ノ作用ノミ
 抑モ無限ノ心意ハ世界ノ造物者タリ是レ猶ホ其有限ノ

道理ノ主宰タルカ如シ故ニ夫ノ此世界ヲ以テ無生ノ物
 体ヨリ成立セルモノナルコトヲ主張スルモノハ此世界
 ナ以テ人工ニ由テ成レル船舶ノ如ク唯タ生チクシテ長
 ク止マルモノトナスモノニシテ亦タ世界ト我トヲ知ラ
 サルモノトイフヘシ無限ノ道理ハ唯リ人ニノミ成立ス
 ルモノナルカ故ニ亦タ人ニ於テ有限ナルモノナリ人ハ
 吾カ心意ヲ以テ世界ヲ起造ス然ラサルモ之ニ由テ其之
 アルヲ知曉決定スルモノタリ嗚呼心意カ汝ノ力ハ誠ニ
 大ナリトイフベシ請フ思想ヲ以テ汝ニ擲タン日月出テ
 而シテ燭火止マズンハ亦タ勞セリトイフベシ請フ不可
 思議ノ問題ヲ解ノ功ヲ以テ之ヲ汝ニ歸サン不シハ正ニ

擅功ノ名ヲ受ケン

非子觀念論ノ應用

我ハ元來自動的タリ故ニ自由ナリ然レモ此自動自由ハ無限ナルニ於テハ茫然トシテ自失シ意識ナクシテ止マラサルヘカラス即チ成立ナキニ至ラン即チ一ノ抵抗ニ遭ハサルニ至ラン此抵抗ヲ滅盡センカタメノ自己ノ意識ヲ擴充ス此ニ於テ外物ヲ知り又タ此ニ由テ自己ヲ知ル然レモ抵抗ハ自由ヲ制限ス而シテ我ハ自動ナルカ故ニ自由ナリ此離分力ハ十分ナル發達ニ由テ自由ヲ實覺セシム又タ此ニ由テ外物ヲ滅盡ス

此ニ於テ道義ノ點ニ關シテ普通ノ學派ト區別ヲ生スル

義務ハ吾人ノ意志ヲ以テ好惡スヘキニ非ス必意ノ必然ノ果ナリ

ニ至レリ曰ク義務ハ吾人カ妄ニ之ヲ受ケ或ハ之ヲ拒クヲ得ヘキ道義上ノ一責任ニアラス個ハ唯タ人ノ心意ニ存在セル一ノ感觸ノミ人ノ人タル要素ノミ

世界ノ成立ハ吾人カ之ヲ想像スルカ故ニ之アルニ非ス唯ダ吾人カ之ヲ信スルノ故ノミ凡ヘテ眞体ヲ破却セヨ吾人ノ決斷力ハ思想ナラスシテ行動ノミ人ハ其固有ノ性質ニヨリ自己ノ作用ニヨリテ自己ノ成立ヲ實覺セサル可ラス曰ク茲ニ内ニ道義界アリ吾カ使者ハ之ヲ外ニ輸出ス此ニ於テ眞体ノ道義界アリ其成立ノ狀態ハ如何其思想ハ如何曰ク自己ヲ客觀トシテ實覺スルニアリ單純ノ主觀トシテハ自己ヲ見ハス克ハス自己ヲ成立セシ

七十二
メンカタメニハ自己ヲ以テ主觀客觀トセサル可ラス
請フ其成果ヲ見ハサシ此道義界ノ實覺ハ吾人ノ發達ニ
非ルカ人ハ自己ノ固有ノ性質ニヨリテ道義ヲ行フヲ迫
マラル然レモ德行アルコトハ外界ノ理法ニ從フノ謂ニ
アラスシテ内界ノ理法ヲ満足セシムルノ謂ナリ此内界
ノ理法ヲ満足セシムルトイフコトハ奴隸的伏從ノ謂ニ
アラスシテ其自由タリ何トナレハ自己ノ勢力ヲ他ノ犧
牲ニ供スルニアラスシテ自己ノ勢力ヲ十分使用スルノ
謂ナレハナリ
曰ク人生ノ生存ハ一戰爭ナリ人ノ自由精神ハ其有限ナ
ル間ハ不完全ナリ故ニ自己ヲ完全ナラシメ且ツ無限ナ

ラシメンカタメニハ人ニ常ニ己ニ反スルモノヲ破却ス
人ハ自ラ自己ノ自由ヲ知ル又タ其從者ノ自由ヲ知ル故
ニ吾人ノ義務ハ人ヲ待ツニ己レノ如クスルニアリ之ヲ
以テ一個人ノ自由ハ一國政府ノ原理ナリト是ヨリシテ
非子ハ其政法論ヲ出セリ

非子ハ上帝ニ關シテ如何ナル議論ヲ有セシヤヲ見ント
スルニ曾テ子ヲ無神論者ナリト論斷スルモノアリ然レ
モ子ノ答辨ヲ見ルニ全ク然ラサルモノ、如シ今マ上帝
ハ万物ノ内部ノ分子ヨリ世界ヲ原造ス其證ハ世界ニ意
匠アルヲ見テ之ヲ知ルベシ世界ニ意匠アルハ原造者ア
ルノ證ナリト是レ世人カ普通ニ云フ所ノ說ナリ然レモ

莊子則陽篇
少知問太公
謂曰四方之
內六合之裏
万物之所生
惡起曰陰陽
相照相蓋相
治四時相代
相生相殺欲

惡去就、於是
橋起、唯雄片
合、於是庸有
安危相易、禍
福相生云云、
聚散以成、此
名實之可紀、
精微之可志
也、隨序之相
理、橋運之相
使、窮則反、終
則始、此物之
所有、言之所
盡、知之所至
極、物而已、視
物之人、不隨
其所廢、不原

非子ハ之ヲ拒絶セリ第一吾人ノ世界ト稱スル所ノモノ
ハ唯タ義務ノ人間ニ流落セシモノ、ミ自己ノ客觀的成
立ノミ之ヲ原造スルモノハ我ノミト此ノ如キノ議論ハ
克ク之ヲ了解セサルニ於テハ誠ニ無神論ノ如クナリト
雖モ決シテ爾ルニ非ス唯タ是レ一個ノ無力ナル有神論
ナルノミ
加之非子ハ其所謂ル意匠ナルモノ、世界ニ存在スルヲ
拒メリ何トナレハ所謂ル意匠ハ全ク無限ノモノニ應用
スヘカラサル悟性ニ因テ得タル結論ナレハナリ曰ク意
匠ハ主觀的ノ概念ノミト曰ク上帝トハ推論ノ結果ニア
ラス唯タ之ヲ信スルノミ然レモ凡ソ信ハ有證ノ基礎タ

其所起、此騰
之所止、少知
曰、季真之莫
爲、(言者冥
冥之中、初無
主宰、皆偶然
爾)接子之
或使、(言有
主宰無非使、
然所謂行或
使之止、或使
之是也)二
家之議孰正
云云、可以言
論者、物之粗
也、可以意致
者、物之精也
トハ此意ナ

リ試ミニ問フ汝ハ何ヲ以テカ世界ノ成立ヲ信スルヤ是
レ汝ガ汝ノ意ニ於テ現出セシメシモノニ他ナラス然レ
モ汝ハ尙ホ之ヲ信セリ汝カ上帝ヲ神スル猶ホ此ノ如シ
曰ク上帝ハ世界ノ道義ノ秩序ノミ上帝ハ此ノ如クシテ
信スヘキノミ何トナレハ吾人若シ之ニ智力人品ヲ卑與
スルコトアラハ直ニ神人同形説ニ墮落スルノ憂アレハ
ナリ上帝ハ無限ナリ故ニ吾カ科學ノ達スル所ニアラス
科學ハ有限ヲ論スルノ學ナリ上帝ハ有限ナラス畢竟是
レ吾カ之ヲ信スルニ止マルノミ以テ其無神論者タラサ
ルヲ知ルヘシ

弗例度律具維利耶無如松勢麗非子

本文配スル
カ如ク勢子
ハ道理ヲ以
テ磁石ノ無
味點ニ比ス
ルカ故ニ世
人勢子ノ哲
學ヲ名ケテ
無味哲學ト
イヘリ

千七百七十五年二月二十七日ニ生レ篤閩善理府疾苦
是那ノ諸大學ニ於テ修學シ就中是那校ニ於テハ非低
氏ヲ師トセシカ後遂ニ其職ヲ襲ヒテ教頭トナリ千八
百七年魔仁苦ニ往イテ粉壁術ノ學校ノ教頭トナリ爾
時長文ノ演說ヲナシ馬蔑里耶王ノ褒辭ヲ辱フス千八
百二十年同處理學大學校ノ總理ト爭論ノ末茲ヲ辭シ
亞蘭普ニ帷ヲ下タシテ哲學ヲ教授シ久シカラスシテ
伯林ニ歸リ歇傑兒ノ後任ヲ襲ヒテ大學教頭タリシカ
大ニ歇傑兒派ト軋轢セリ次テ千八百五十五年八月廿
日死ス

勢子哲學教義

勢子ハ世人往々見テ以テ今代ノ布刺多トナセリ然レモ
世ノ人ヲ評スルヤ眞偽相交ハリ容易ニ判スベカラス抑
モ子ノ著書ハ悉ク快活ナル想像ト急激ノ敏辨法トヲ結
合セシモノナルカ若シ此點ニ於テ以テ布刺多トナスカ
果シテ然ラハ布刺多ノ名ハ評シ得テ妙ナリト云フベシ
然レモ其教義ヲ以テ相比セントセハ毫モ相似ル所アル
ナシ抑モ子ハ論法方式ニ於テ布刺多ニ似タルノミナラ
ス其容貌甚タ蘇苦郎低子ニ似タリ爾カモ蘇子ノ如ク醜
ナラスト雖モ一般ノ性質ニ於テ甚タ多ク相似亦タ極メ
テ傾癖ノ盛ナル驚クニ堪タリ其論議上ノ傾癖ハ之ヲ萬
有神教ニ抛テシカ此傾癖ハ唯リ子ノ神幽ヲ好ムノ致ス

所ニ非ス號斯^{ゴウ}ハ子ヲ以テ殆ント諾蔑利士^{ノバ}ニ劣ラサルノ
 傾癖アリトナセリ元來萬有神教ハ宗教ヲ哲學的ニ論ス
 ルモノ、多ク墮落スル所ノ陷井ニシテ就中歐州中日耳
 曼ノ想考詩文ハ此途ニ出ルモノ多ク其學者、音樂、技術、詩
 歌、皆ナ多少萬有神教ノ臭氣ヲ帶ブ故ニ勢麗非子カ萬有
 神教ニ學問的ノ基礎ヲ卑與セントセシハ決シテ非難ス
 ヘキニ非ルナリ
 余輩ハ今マ茲ニ勢子等ノ想考派ト古昔ノ亞曆山度理派^{アレキサンダー}
 トハ曆史上ニ同一ノ地位ヲ占ムルモノナルヲ述ヘント
 ス此兩派ハ與ニ現在ノ道理ハ共ニ哲學上ノ大問題ヲ解
 釋スルニ足ラサルカ故ニ猶ホ一層高遠ナル能力アラシ

コトヲ求メタリ而シテ此能力ヲ布露智那斯子^{プラト}ハ入定ト
 名ケ勢子ハ直覺靈智ト呼ヘリエクスタレ一入定ハ萬人
 共有ノモノニ非ス又タ終始之アルモノニ非ス數人之ヲ
 有シ時々之アルモノタリ而シテ直覺靈智ハ萬人共有ノ
 物タリト雖モ之ヲ使用スルコト極メテ少ナク唯タ哲學
 的ニ萬物ヲ觀ルノ時ニ於テノミ之ヲ使用スルモノトセ
 リ勢子ハ夫ノ哲學ノ高尚ナル真理ヲ曉解セストナスモ
 ノニ對シ揚言シテ曰ク哲學ハ不能ノ人ノ注意ヲ受クル
 コトナシ吾人ハ哲學ヲ以テ通俗ノ根基ヨリ之ヲ離絶シ
 普通ノ知識ヨリ之ヲ融絶スルヲ悅ブ何トナレハ此等ノ
 根基ハ到底因テ以テ真正ノ哲學ニ達スルヲ得サレハナ

リ要スルニ哲學ハ普通ノ知識ノ尽クル所ノ處ニ始マル
 モノタリト元來學問ノ真理ハ故ラニ據証アルコト克ハ
 サルカ故ニ他ノ之ヲ曉解スルニ任スルノミ何トナレバ
 之ヲ曉解スル克ハサルモノハ是レ誨ユルニ足ラスシテ
 此ノ如キモノニ對シテハ論理モ其功アルナケレハナリ
 曩キニモ謂ヘルカ如ク勢子ハ世人見テ以テ日國ノ布刺
 多トナスアリ然レモ個ハ此ノ如ク呼ハスシテ日國ノ布
 露知那スト呼フヲ以テ正當ナリトス然レモ此レ全体ノ
 比較ニ非スシテ其社會ニ對セル功過上ノ比較ニシテ如
 何ニ同一ノ誤謬ヲナシテ同一ノ勞力ハ如何ナル結果ヲ
 世界人心ノ上ニ起コセシヤヲ顯ハスニアリ

勢子ガ哲學上ノ第一着歩ハ非低子ノ說ヲ改良スルニア
 リ元來非子ノ觀念論ハ純ラ主觀的觀念論ナリ其意客觀
 ハ實ナリト雖モ唯タ主觀ニ從屬スルモノタルカ故ナリ
 而シテ勢子ノ改良ハ以テ客觀ト主觀ト分隔絶スヘカラ
 ス主觀ト客觀トハ合一スヘシトナスニアリ思フニ事物
 ニ關セル概念ハ眞ニ唯タ主觀ノ所作ニシテ吾人ハ吾人
 ノ知ル可ラサル某ノ物(眞象)ヲ假定シテ之ヲ顯象カ附屬
 スル所ノ本体トナスハ是レ心裡ノ組織ノ必然ノ果ナリ
 トナスモ此假定ハ何物カ之ヲナサシムルヤ是レ心意ノ
 行動ノミ全ク主觀ノ作用ノミ之ヲ假定スルノ必然ハ心
 意ノ必然ノミ此ニ知ル我ヲササルモノハ我ノ生スル所

タルヲト

以上ノ論議ハ其内甚々狡猾ノ點アリ然レモ亦々掩フ可
ヲサルノ原理ヲ包含セリ何ソヤ知識ニ於テ主觀客觀ノ
合一是ナリ然リ而シテ以テ拒ク可ヲサルノ原理ナリト
ナスモ外界ノ万有ヲ破却スルハ過激ノ結論トイフベシ
然レモ此原理ヨリスレハ此結論ハ避クヘカラサルナリ
外界ノ成立ハ内界ノ成立ト共ニ同一ノ作用ニヨルノ理
ハ固ク吾人ノ信スル所ニシテ吾人カ我ノ成立ヲ論スル
ニ方ツテ其必然我ト相關係スルモノヲ外ニシテ唯々我
レ獨リ自ラ我ノ成立セルコトヲ意識スル克ハス是レ猶
ホ外界ノ成立ヲ證明セントスルニハ必ス我ト對照スル

ニ非ズンハ之ヲ證スル克ハサルカ如シ故ニ余輩ハ斷言
ス内界外界ハ共ニ成立スルモノニシテ唯リ自ラ成立ス
ルモノニ非ス某ノ高尚ナル勢力ノタメ合一スト然ルニ
非子ノ曰ク外物ハ我ニ由テ生スト是レ二子ノ支吾スル
所以ナリ知識トハ某ノ物ヲ知ルノ謂ナリ故ニ知識ハ實
在ノ集蒐ヲ含ムモノニシテ之ヲ知ルヘキノ外物ナクン
ハ知識ナルモノハ空函ノ以テ物ヲ容ル、ニ足ルモ之ニ
納ル、ノ物ナキカ如シ之ヲ以テ知識ト實在トハ相互ヒ
ニ交錯スルモノニシテ隔離スヘキニ非ス主觀的ニ知ル
ヲ得スシテ客觀的ニ知ル克ハス又々客觀的ニ知ルヲ得
スシテ主觀的ニ知ル克ハサルナリ

不形之形、形
之不形

宇宙ハ見ルコトヲ得ヘキ精靈ニシテ精靈ハ見ルコトヲ
得サル所ノ宇宙タリ故ニ絶對ノ理想ハ絶体ノ眞体ナリ
是ヨリシテ哲學ノ正サニ解釋スヘキ本原ノ二問題アツ
テ現出シ來レリ即チ先ツ超絶哲學ニ於テハ其問題智力
ヨリ宇宙ヲナスト云フニアリ即チ主觀ヨリ客觀ニ及ボ
スノ意ナリ自然哲學ニ於テハ其問題宇宙ヨリ智力ニ及
ボスアリ即チ客觀主觀ヲナスノ意ナリ今ニ吾人ハ如何
ニシテ一ヨリ他ヲ建設スルヲ得ヘキヤ非子ハ吾人ニ誨
フルニ主客兩觀ノ合一ヲ以テシテ現生力(我)ト現生物(外
物)トハ永ク相反シテ而シテ亦タ一ナリト云ヘリ元來現
生力ハ其作用自動的ニシテ自ラ萬物ニ發達スル所ノ勢

力タリ現生物人自動力が事物ニ解散セルモノニシテ再
心之ヲ自動力ニ歸元スルヲ得ルモノタリ此ノ如キカ故
ニ宇宙トハ唯ダ絶對ノ内ニ相反力カ平均ヲ得ントシテ
相争フ所ノ状態タルニ過キサルナリ
然ラハ則チ勢子ト非子トノ差異ハ何クニアリヤ夫レ上
文ノ論スル所ヨリ之ヲ推論スレハ二子共ニ外物ハ我ノ
生スル所トナシ殆ント羞フ所ヲ見ス其支吾ノ道果シテ
如何曰ク非子ノ方式ニ從ヘハ我トハ有限ニシテ人生ノ
靈魂ヲ指サシ勢子ノ方式ニ從ヘハ我トハ絶對無限ニシ
テ斯此諾撒子ノ所謂ル本体ナルモノタリ而シテ此絶對
ハ我ト外物ト即チ自然ト心意トノ二物トナリテ表顯ス

是レ二子ノ相異ナリ

夫レ我ハ固ヨリ外物ヲ生ス然レモ我自ラ己ノ力ニ由テ

之ヲ生スルモノニ非ス宇宙ノ間自ラ太質ナルモノアツ

テ存ス此太質力ヲ我ニ加ヘ而シテ後々之ヲ外物ニ及ホ

スナリ故ニ人間ノ靈魂ハ万有ノ精靈カ有スル所ノ數個

ノ眼睛ニ過キス其一二ヲ具フルモ以テ全般ヲ見得タリ

トナス勿レ

然ラハ我トハ何ヲカ指サスヤ曰ク是レ之ヲシテ自ラ目

的タラシムル所ノ作用ト相同シ吾人若シ「我自ラ」ト云ヘ

我ノ我タル概念ヲナスキハ誰レカ其概念ノ目的タルヘ

キヤ是レ明カニ知ル意識ハ我ノ目的タルヲ是レ大ニ好

言フ心ハ一
個人ノ靈魂
ハ因テ以テ
宇宙ノ太質
ヲ窺フ眼睛
ナリ

シ請フ之ヲ絶對上ニ應用セヨ此ニ又タ人ハ自ラ自己ヲ

意識セサル可ラス之ヲ意識センカタメニハ之ヲ客觀的

ニ實覺セサル可ラス個ハ勢子ノ言ヲ以テ曉會スヘシ子

曰ク自然カ知ラス識ラスシテ生出セシモノハ自ラ己ヲ

シテ客觀ナラシムヘキ未成ノ企圖ニ他ナラスト所謂ル

死シタル宇宙トハ未タ熟セサル智力ノ謂ナリ其能成的

ノ最高點即チ自然カ十分ニ客觀トナランカ爲メニハ人

生ノ高尙極端ナル反省ニ由ラサル可ラス是レ則チ吾人

所謂ル道理ナリ主觀ト客觀ハ相合一ス

其他子ハ道理ハ此他尙ホ主觀客觀ノ無味點トナルノ務

アリトナセリ即チ子ハ絶對ヲ磁石ニ譬ヘ其眞体ト理想

ナ南北ニ比へ其南北ノ中心ニ無味點アルカ如クニ道理
 ナ其中心ニ安置シテ絶對ノ無味點トナセリ而シテ磁石
 ハ那邊ニ於テモ其レ自身磁石ナルカ如ク宇宙ニ於テモ
 個々ノ種別ハ無限ノ宇宙ニアル種別ニシテ人ハ又タ一
 小世界ナリ

道理ハ無味點ニシテ那ノ點ヨリ之ヲ喚ビ起コスモ物ノ
 眞体ヲ呼フト相同シ故ニ哲學ノ基礎ハ道理ノ基礎ト相
 同シク其知識ハ其物体ノ實ニアルカ如ク之ヲ知ルノ謂
 ナリ又タ道理ニ於テ之アルカ如クニ之ヲ知ルノ謂ナリ
 此ニ於テ布露智那斯ノ精神ハ再ビ此等ノ言論ノ喚ビ起
 コストコロトナレリ何トナレハ此等ノ言論ハ其ノ基礎

皆ナ亞歷山度理派ニ存シ彼ノ吾人カ因テ以テ絶對ヲ知
 ルノ直覺靈智ナルモノハ其實亞歷山度兒派ノ入定ナル
 モノニ他ナラサレハナリ勢子ハ善ク無限ノ絶對ハ有限
 ノ状態ノ下ニ知ルコトヲ得ス一個人ノ意識ニ於テ知ル
 克ハサルモノナルヲ知レリ然ラハ則チ子ハ何ニ由テ知
 ル克ハサルモノナルコトヲ知レリヤ曰ク客觀主觀ヲ合
 一スル某ノ高尚ナル能力ニ由テ之ヲ知レリ故ニ此能力
 ナ以テ之ヲ見レハ万殊ノ大宗タル絶對ハ万殊ノ大倉ト
 ナルベシ

抑モ勢子ノ方法ニハ三個ノ區別アリ即チ自然哲學超絶
 哲學絶對哲學ニシテ其内自然哲學ハ獨逸ニ於テ非常ノ

非難ヲ受ケシモノナリ下文ヲ讀ムバ畧ホ其性質ヲ知ル
ヲ得ン

曰ク主觀ト客觀トハ合一スヘシ其絶對上ノ合一ハ絶對
上ノ完全ニシテ之ヲ宇宙ト名ク宇宙元來相反ナシ之ア
ルハ唯ダ分量上ノ相反ナリ然レモ是レ相反ニアラス差
異ナリ此分量ノ差異ハ又タ唯ダ一個人ノ成立ニ於テ之
アルノミ何トナレハ絶對合一ハ客觀ト主觀トノ分量上
ノ同一ヲ云フモノニシテ其差異アルハ唯此ノ如キ形体
ノ下ニノミ之アルモノナリ而シテ吾人宇宙ニアル所ノ
萬般ノモノヲ取リテ其完全セル形体ノ下ニ之ヲ見ルア
ラハ完全ナル分量ノ平等ヲ見ルコトアラシ故ニ之ヲ全

備セスシテ一部一局ヲ取リテ之ヲ見シナラハ分量上ノ
差異ヲ見ルナラン是レ一個人ノ成立ニハ差異アリト云
フ所以ナリ

此差異ヲ決斷スルハ則チ勢力ニシテ絶對ハ萬種ノ勢力
ノ合一セルモノナリ元來萬物ハ凡ヘテ流動体ナリ重量
ハ凡ヘテ接引力ト離分力カ物ノ眞体ノ根底ニ於テ相行
動スル所ノ勢力ナリ重量ハ第一勢力ニシテ第二勢力ハ
光タリ吾人カ光ト相合スルハ即チ明ナリ熱ハ光ノ性質
ト相關セス唯ダ光ノ成立スル形容ヲ象ハスモノタリ牛
黄ノ光論ハ不法ノ論法ニ從フモノニシテ自家撞着ノ所
アリ之ヨリ推論スレハ明白ナル誤謬ニ陷ルヘシト以上

ハ勢子ノ言ナリ然レ_レ誤謬ノ牛黃ハ功名百世ニ輝キテ
 其論ニ由テ大發明ヲ惹キ起コスモノ少カラス正當ナル
 勢子ノ論ハ危辨ノ他惹キ起コスノ果ナシ嗚呼何ソ其レ
 奇ナルヤ吾人又タ言フヲ欲セサルナリ
 勢子曰ク學問ノ貴フヘキハ其想考ニ止マルニアリト而
 シテ其想考ナルモノハ上帝ヲ成立スルモノトシテ論ス
 ルノ謂ニシテ若シ上帝ノ存在ヲ遮詮スルキハ道理ハ其
 他ノ或ル物ヲ表詮スル克ハス又タ其他ノ物ノ如ク自己
 ナモ成立ナキモノトセサル可ラス事若シ此ノ如クナレ
 ハ思想ハ吾思想ニアラス實在ハ吾實在ニ非ス何トナレ
 ハ萬物悉ク上帝ニ屬スレハナリ吾人ノ有スル道理ナク

吾人ノ曾テ有セル道理アルノミ上帝ノ外萬般ノ成立悉
 ク之アルナクンハ上帝ニ關セル知識ハ是レ上帝自ラ自
 己ヲ表詮セル無限知識タルニ過キス上帝ハ又タ最上級
 ノモノタル克ハサルニ至ラン何トナレハ萬物アルナク
 唯一ノモノタラハ最上級ナル比較的ノ文字ハ之アル克
 ハサレハナリ

吾人若シ子ノ論ヲ許サハ此ノ如キ結果ヲ生スヘシ曰ク
 主觀ノ外茲ニ客觀アリ客觀主觀ハ絶對上ニ合一ス此絶
 對ナルモノハ其實眞体ニアラス理想ニ非スシテ上帝ナ
 リ上帝ハ萬般成立ノ本原ナリ上帝ハ二個ノ形体ヲ設ケ
 第一ノ形体ノ下ニハ主觀トシテ現ハル即チ上帝ハ人ニ

由テ自己ヲ意識セリ此人ナルモノハ其上帝ノ成立ノ最
モ高尚ナル形体ヲ以テ現ハレタルモノニシテ乃チ又タ
道理ナリ此道理ニ由リテ上帝ハ己ヲ知ルト是レ勢子哲
學推論ノ結果ナリ試ミニ問フ子ノ主義ハ如何ナル點ニ
於テ斯比諾撒ト異ナルヤ蓋シ子カ主觀客觀ノ無味點ト
ナス所ノ絶對ナルモノハ大極無々ノ說ニシテ亞歷山度
利派ノ三者合一論ノ假定說ニ過キス兩觀合一ノ絶對ハ
斯比諾撒ノ本体ト異ナルコトナカルベキナリ
其他客觀主觀ニハ唯其顯象的眞体ノ成立ヲ昇與スルノ
說ニ於テハ斯比諾撒ト相同シク唯一絶對ノ說ニ於テハ
亞歷山度利派ト相同シ然レモ其本原ニ於テハ稍相似ル

ユト此ノ如クナリト雖モ而カモ其方式應用ヲ異ニセリ
而シテ斯子ト勢子ト孰レカ優劣ナルベキヲ問ヘゞ吾人
ハ斯子ニ與ミセサルヲ得サルナリ

弗列度律具片利知邪呼妮子

詩曰ク潜雖伏矣亦孔之昭ト其レ邪呼妮子ノ謂カ子ハ
千七百四十三年瑣度兒府ニ生ル父ハ商賈ニシテ子ニ
勸ムルニ錙銖ノ利ヲ計ルヲ以テスルヨリ幼ニシテ商
業ニ從事シ因テ深ク佛語ニ嫻ヘシカ後十一貴紳ノ女
ヲ娶リ之カタメ其本業ヲ抛チテ其婦ノ伯父ノ薦ニヨ
リ一秘書官トナレリ次テ佛國革命ノ余波延イテ郷里
ニ及ホス故ヲ以テ保斯纏ニ移リ千八百〇四年魔寧苦

ニ新設セル理學大學校ノ教頭トナリ七十歳ニシテ再
 ビ秘書官ニ復シ終身俸ヲ受ケ千八百十九年五月十日
 卒ス常ニ自ラ天下ニ薦メスト雖モ天下ハ常ニ之ヲ追
 ヒテ已マス其學問ハ乱離ノ中ニ成リテ常師ナシト雖
 モ天下ノ常師タリ

子ノ哲學ハ全ク批評哲學及ビ獨斷哲學ト異ナリ稍不可
 思議論ノ傾問ヲ有シ又々極メテ深奥ニシテ且ツ宗教的
 ナル心ヲ有シ其晚來ニ至リテ唱道セル論說ハ斷然已テ
 以テ哲學ノ敵トナスヲ證スルカ如キノ觀アリ曰ク解説
 ナクンハ眞理タルヲ許ササル斯比諾撒說ノ如キ凝結セ
 サル獨斷說ハ唯々萬有神教ニ入ルベキノミト然ルニ批

評哲學ハ其固有ノ偏僻ニ於テ實際ノ正當ナル信向ヲ以
 テ其實体タルヲ證スルニ非ンハ超絶感覺ノ物体ヲ認識
 スルヲ許サ、ルナリ此ニ於テ毅然トシテ支吾ノ道ヲ開
 ケリ

子曰ク哲學ノ知識ハ凡ヘテ其基礎ヲ信向ニ取ルト仔細
 ニイヘハ心意ノ直接ノ感覺ニヨリテ生ル、智識ノ類ニ
 シテ又々眞正超絶感覺ノ證據ヲ要セザル直接ノ曉會ニ
 シテ子ハ之ヲ名ケテ道理ノ理性トイヘリ又々之トトモ
 ニ此ノ如キ信向ト積極上ノ信向トノ區別ヲ立テリ曰ク
 外界ハ外部ノ感覺ニ由テ我ニ隱示ス然レモ夫ノ造物自
 由意志不死道義等ノ如キ外部ノ感覺ノ覺取スル克サル

モノハ内部ノ感覺之ヲ覺取ス觀念ノ能力タル道理ハ内部ノ感覺ニ隱示シテ其材料ヲ哲學ニ昇與ス悟性ハ論理的概念ノ能力ニシテ形体ヲ哲學ニ昇予スト子ハ又々大ニ韓圖子ノ能力ニ服シ其從來ノ論士ノ徒勞ヲ破却シテ哲學ノ新式ヲ立テシヲ稱スト雖モ子ハ眞体ニシテ且ツ超絶感覺ノ物体ト待對ナル實際理論ノ兩認識ハ皆ナ直接ナルヲ主張スルヲ以テ之ト相支吾セリ曰ク批評哲學ハ正當ノ曉會ヲ破却スルノミナラス又々感覺上ノ曉會ヲ滅盡スルモノナリト又々之ト同時ニ眞實哲學ノ方式ノ爲スヘカラサルヲ主張セリ

如安弗例度律具包波士子

韓子ノ哲學ハ羊角トシテ日耳曼ノ文學ヲ席卷シテ猶ホ已トコトナカリシカ包波士子生ルニ及ンテ風勢漸ク其趣ク所ヲ異ニスルニ及ヘリ子ノ哲學ハ往々先輩ト方式ヲ異ニシ道理ノ觀念ヲ以テ本原ノ主義トナサスシテ韓子ノ如ク主觀的ノ經驗ヲ批評的ニ查驗スルヲ以テ問題トナセリ是レヲヨリ觀察スレハ全ク韓子ノ批評派ト相同シキカ如クナリト雖モ是レ大ニ然ラス故ヲ以テ歷史上他ノ哲學者ト離群シテ一孤島ヲナセリ

哲學ノ根基起程ニ關セル包子ノ意見ハ之ヲ以テ經驗ノ方式ニ由テ得ル知識即チ萬物ノ通觀ヲナスニアリ曰ク哲學ノ方式ハ經驗的ノ意匠ニシテ某ノ特別ノ識者カ之

ニ由テ他ノ己ニ供出セル問題ヲ解説セントスルモノタ
 リ哲學ノ諸問題ハ皆ナ全ク事實ヲ基トセサル可ラス或
 ハ寧ロ之ヲ以テ提起者トセサルヘカラス人生カ眞僞ヲ
 判スルノ基礎ハ唯リ經驗ニアリ故ニ經驗ハ哲學ノ原始
 タリ思想ハ經驗ノ總念ニ服セサルヘカラス
 曰ク經驗上ノ事實ハ哲學ノ基礎タリ此ニ於テカ疑問ア
 リテ生ス曰ク何物カ最初ノ事實ナリヤ何物カ哲學ノ原
 始ナリヤト思想ハ始メテ經驗ノ範圍ヲ脱シテ自己ヲ自
 由ナラシメントスルモノナルカ故ニ思想カ單ニ附與セ
 ラレタル事實ノ上ニ自己ヲ加フルヤ否ヤ哲學ハ直ニ生
 スルモノタリ此ニ於テ二個ノ思疑ヲ生ス即チ上級思疑

下級思疑是ナリ下級思疑ハ唯タ萬物ハ其我ニ顯ハル、
 カ如ク組織セラル、モノナルカト疑ヒ高級思疑ハ一般
 ノ顯象界ヲ超絶シテ其萬般ノ成立中ニ某ノモノアルカ
 ヲ疑フ比ヘハ時間ノ連續ヲ疑フノ類ニシテ自然ノ物体
 ノ意匠ヲ問ヘ其共物自身ニ屬スルヤ將タ我ニ屬スルヤ
 ナ求ムルカ如シ此ノ如クシテ性理學上ノ問題ヲ來タス
 曰ク思疑ノ結果ハ此ノ如キカ故ニ稍極ナラヌ精極ナラ
 ス思疑ノ經驗ノ總念ニ他ナラサルナリ而シテ哲學ノ負
 フ所亦タ此ニ外ナラサルナリト
 性理學ニ關スル包波土ノ意見ハ之ヲ以テ經驗ニ由テ知
 ルヲ得ヘキ學問トナスニアリ此ノ如クシテ吾人ハ二個

ノ真理ヲ知覺スルヲ得タリ即チ一ハ哲學ノ基礎ハ經驗ニアルコト一ハ疑思ハ經驗ノ信スヘキコトヲ表章スルコト是ナリ故ニ第一此思疑ヲ性理學上ノ問題ノ精細ナル知識ニ變換セサル可ラス概念ハ我普通ノ悟性ニ因テ思想トナル然レモ此思想ハ之ニ附着セル相反質ヲ比較區別セサルカ故ニ錯綜ニシテ且ツ闇然タルモノナリ

維利耶無郎吳度苦羅虞子

弗列度律具布雷士子

此二哲學者ハ批評哲學ヲ發達セシムルニ大功アリ苦羅虞子ハ維典堡ニ生レ理布疾苦第一ノ博士ニシテ總合超絶的ノ嚴正ナル形体ノ下ニ哲學ヲ論究スルニ由テ功

リ布雷士子ハ馬尾ニ生レ屏典堡ノ博士ニシテ韓子ノ純理辨論ニ附着シテ純理ヲ辨論スルヲ以テ功アリ
 苦子ニ從ヘハ哲學上ノ講理ノ作用ノ思想カ自己ヲ悟曉シ自己ヲ知ランカタメ思想ニ入ルハ乃チ是レ認識スル主觀カ認識セラル、客觀ト致一スル所以ナリ
 曰ク我ハ自ラ知識ノ目的トシテ我ヲ取ル間ハ我ハ真理ノ原理タリ

如兒辭維利耶無弗例度律具歌傑具子

一千七百七十年八月廿七日瓦纏堡州ノ斯多士賀ニ生レ十九歳ニシテ篤聞善大學ニ入り神學ヲ修メ其課程ヲ終ルノ後出テ、一親戚ノ教授ヲ負ヒ由テ廣ク古今ノ

圖書ニ接スルノ機會ヲ得千八百〇一年三十二歳ニシテ是那大學ノ教頭トナル此時非低勢麗非兩子ノ説ノ差異ヲ論シテ一書ヲ著ハス千八百六年教頭ノ任ヲ一佛人ニ托シ出テ、一新紙ヲ發行ス後屏泥堡ニ於テ哲學ノ講議ヲナシ此際哲學全論ヲ著ハシ千八百三十一年伯林ニアリ虎列刺病ノ侵カス所トナリテ鬼籍ニ上ル享年六十二日耳曼ノ哲學此ノ人ニ大成ス

子ノ哲學ノ方式ハ絶對ニシテ他百般ノ方式ヲ包含セリ子ハ自ラ思ヲク子ノ方式ハ以テ人心全体ノ進歩。歴史全体ノ道途。人象全体ノ因果ヲ解説スルニ足ルノミナラス想考上ノ問題ヲ解説スルハ唯リ此式ニ因テノミ得ベシ

抱朴子、暢玄
篇云玄者自
然之始祖而
万殊之大宗
也、眇昧乎其
深也、故稱微
焉、綿邈乎其
遠也、故稱妙
焉、其高則冠
蓋乎九霄、其
曠則籠罩乎
八隅、胞胎元
一、範鑄兩儀、
吐納大始、鼓
怡億類云々
ト精細ニ觀
察シ來レハ
一字一句相

トナセリ曰ク天地ノ間固ト萬物ニ彌漫周流スル所ノ絶對本體ナルモノアリ此本體ハ則チ是レ精靈ナリ此精靈ハ之ニ界付スルニ發達ノ勢力ヲ以テスベク此ヨリ相反ノ勢ト宇宙ノ力トヲ生出ス故ニ吾人ガ之ニ對シナスベキノ務ハ唯タ之ヲ傍觀シ其順序理法ニ隨フニアルノミ而シ其順序理法ハ先ヅ相反ノ力ノ進化スルヲ始メトス是ヨリ其相反ノ間ノ拍和ヲ生ス凡ベテ此相反ノ二力ハ平方的ニ進ムモノナルカ故ニ是ヨリ陰ト陽トノ別ヲ生シ而シテ後相反ノ間ノ拍和アツテ二力ノ致一ヲ生ス是レ萬物發生ノ順序理法ナリト思フニ子ノ方式ハ三者ヲ包ムテ一ヲナスガ如シ即チ論理學。自然理學。精靈理學。

同シカラカ
ルナシ亦タ
奇ナリトイ
フヘシ
老子曰常無
欲以觀其妙
常有欲以觀
其微此兩者
同出而異名
ト亦タ精靈
ノ唯一ヨリ
陰即チ消極
ト陽即チ積
極トノ二個
ノ相反力チ
生スルカ如
シ
又曰道生

是レナリ論理學ハ絕對觀念ヲ形而上ノ性質ニ於テ論ス
ルノ學ニシテ自然理學ハ同ジク絕對ヲ論スルノ學ニシ
テ唯タ之ヲ形而下ニ論スルノ差アルノミ精靈理學ハ三
者ノウチ最モ高尚ナルモノニシテ主觀的精靈客觀的精
靈及ビ絕對精靈ノ三ヲ論ス絕對精靈ハ之ヲ仔細ニイヘ
ハ三段ニシテ宗教技術哲學ノ三者ニ分ツベシ
抑モ世ニ新奇ナル者アリテ現出スルヤ否ヤ是非褒貶ノ
其周圍ニ諍諍スルヤ古ヨリ免レサル所タリ是レ之ヲ見
テ以テ妙道ノ行トナスノ智者少ナクソ以テ孟浪ノ言ト
ナスノ愚夫多ケレバナリ夫ノ歌子ノ新式哲學ヲ唱道ス
ルヤ亦タ實ニ此是非褒貶ノ諍諍スル所トナリ之ヲ可ト

一一生三三
產三三生万
物万物負陰
而抱陽冲氣
以脩和

スルモノハ其高キヲ極ハメ之ヲ非トスルモノハ其低キ
ヲ窮ハメ之ヲ是トスルモノハ欣々トシ喜ビ之ヲ非トス
ルモノハ呶々トシ怒リ囂然トシテ已ムコトナシ此ニ於
テカ子ト子ノ徒弟ハ揚言シテ曰ク嗚呼世人ヨ漫ニ吾人
ノ説ヲ是非褒貶スル勿レ吾人ノ説ク所ハ固ヨリ夫ノ基
利士子ノ吾人ニ昇信スル所ノ教義ト大ニ異ナル所アル
ナシト然レモ世人ハ之ヲ以テ靜然タラサリシ蓋シ其レ
今ヲ以テ之ヲ見レバ大ニ基利士教ト方式ニ於テ異ナル
所アルノミナラズ其教徒ノ嫌惡ヲ來タス原由ノアルア
ツテ存セリ請フ之ヲ子ノ主説ニ見ヨ

歌傑兒子哲學ノ方式(道樞論)

勢麗非子ノ教義ハ決シテ嚴正ニ配合ヲ得シモノニ非ス
且ツ先輩韓圖非低ノ諸子ト相背馳セリ然レモ子及ビ徒
弟ハ之ヲ實際ニ應用センコトヲ企タテタリト雖モ遂ニ
完全ノ成工ヲ見ル克ハサリシ
然レモ歇傑兒子出テ、勢子ノ思想ヲ祖述セシヨリ勢子
ノ方法再ビ勢力ヲ得テ既死ノ秋草春風ニ喚ビ起サレ天
下亦タ勢子ノ教義ニ服サシムルニ至レリ然ラハ萬有靈
智ノ賢トシテノ歇傑兒子ノ名譽ハ那邊ニアルヤ其功ハ
何クニアリヤ曰ク新方法ヲ建設セシニアリ
夫レ方法ヲ立ツルノ業タルヤ實ニ重大ノ任ニシテ古來
哲學上ノ大功業トシテ歴史家ノ注目スル所ノモノハ皆

ナ此ニアリ思フニ方法ハ交通ノ道途ニシテ天下民生ノ
交通スル所以ノ道途ヲ建定スルモノハ實ニ天下ノ大功
ヲナスモノナリ試ミニ問フ光論ノ道途未タ建ダサルノ
前。天文學上ニ於テ幾何年ノ間幾何ノ發明アリシヤ嗚呼
方法ハ實ニ大ニシテ之ヲ建ツルノ功ハ眞ニ高シト云フ
ベシ

然リト雖モ道途アリト雖モ其眞ニ目的ニ達スルヲ得ル
ノ道ナリヤ否ヤ亦タ問ハサル可ラス堀加土。一ヲ定メテ
麻武廉知斯比諾撒之ヲ改メ祿苦。一ヲ定メテ飛宇無。暴苦
利之ヲ改ム古來幾方法アルモ從ツテ改メ從ツテ出テ殆
ント寧時ナシ嗚呼方法ノ定ムル難カナ即チ歇傑兒子出

テ、又タ一方法ヲ立ツ其是非未タ謂ヒ易ラサルナリ
 子ノ言ニ曰ク客觀主觀ノ合一ハ已ム可ラサルモノナリ
 思想ニ於テ真ナリトナスモノハ外物ニ即テモ亦真ナリ
 ト語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ心意ト物体ハ一ニシテ觀念ト
 外物ハ相契合スルカ故ニ兩者ノ内一ニ真ナルモノハ他
 ニモ亦タ真ナリト此定位ハ是レ堀加土。斯飛能坐等ノ唱
 道スル所ニシテ勢子。歇子。相尋ギテ此定位ヲ執レリ唯其
 根基ニ於テ異ナル所アルノミ
 今マ此説ハ觀念真トナスモノハ外界ニ於テモ必ラス真
 ナリトナスモノナルヲ以テ大ニ攻撃スヘキノ余地アリ
 故ニ韓子曰ク百金ヲ所有スト云フ觀念ト現ニ百金ヲ有

物我未始有
 分也

スルトハ同シカラズ歇子答テ曰ク哲學ハ百金トイフカ
 如キ物ニハ關セス哲學ハ只タ必然ニシテ且ツ恒久ナル
 モノニノミ其進歩ヲ運ブト
 即チ又タ之ニ反スルモノアリ曰ク善カナ言ヤ百金ト云
 フカ如キ文字ハ之ヲ論談場裡ヨリ排出セヨ唯タ吾人ヲ
 シテ形而上ニ於テノミ論議セシメヨ此ノ如ンバ果シテ
 思想ト實際ノ間ノ相反ヲ免ル、ヲ得ベキカ嗚呼何ソ其
 レ免レンヤ吾人若シ萬物無々ノ思想ヲ懷クアラハ萬物
 無々ノコト有ルヘキカ何ソ之アラシク是アルト云フハ則
 チ已ニ萬物無々ニ非ルナリト
 此ニ於テカ歇子即チ答テ曰ク有ト無トハ絶對上ニ相同

老子四十章
 曰反者道之

動弱者道之用、天下萬物生於有、生於無、

万物同根是非一氣

相反ノ合一之ヲ釋シテ道樞トイフベキカ

シク相反ハ實ニ相合一スト讀者此語ヲ記セヨ此語ハ是レ子ノ方式ノ骨子ナリ蓋シ子ハ燻加土ノ方式ヲ基トセシモ其攻撃ノ中心タルヲ見テ之ニ昇與スルニ一層深奥ナル意義ヲ以テセルナリ
夫レ相反トハ兩者相反背スルノ謂ニシテ普通ノ意義ニ於テハ兩者相容レサルモノニシテ有ト無トハ相反ナルカ故ニ相容レサルモノナリ然ルニ歇子ハ即チ曰ク是レ虚偽ノ言ナリ萬物ハ自ラ相反ノ要質要素アリ以テ物ヲナス萬物ノ合一ハ其相反ト相合スルニアリ絶對上ヨリ論スレハ有無ハ相同シク成立スルトイフコトハ之ヲ遮詮スルニ同シ然レモ茲ニ成立ナキコトヲ推論スルハ亦

莊子曰方生方死、方死方生、方可方不可、因是因非、因非因是、

タ虚偽ノコトタリ何トナレハ無トハ形而上ノ有ト相同シケレハナリト是ヨリシテ曰ク有ハ無ナリ無ハ有ナリ主觀ハ客觀ナリ客觀ハ主觀ナリ明ハ暗ナリ暗ハ明ナリ是ヨリ以往際涯スル所ヲ見スト
此ノ如キ方式ノ發見ハ實ニ至大ノ功業トナスヘキカ如クナルモ而カモ首ヲ回ヘシテ上古ヲ顧ミレハ稍々其價値ヲ減セサル可ラサルモノアリ何ソヤ前古已ニ此ノ如キ意義ヲ唱道スルモノアリシコト是ナリ片羅^ハ苦理^ヲ多^ク曰ク萬物有ナル乎忽然トシテ滅スルアリ萬物無ナル乎忽然トシテ來タルアリ思フニ萬物ハ有ニシテ又タ無ナルモノナリト引波^ハ度^ハ苦^ク兒^ニ曰ク合ノ他ナク離ノ他ナシト之

ニ由テ之ヲ見レハ死生萬化萬物ノ錯綜實ニ如是ノ觀ヲ
 ナサ、ル可ヲサルナリ故ニ歌子曰ク片羅苦理多ノ保持
 セル言論ハ余悉ク之ヲ保持シテ之ヲ發達セシメタリト
 然ラハ則チ歌子ノ功ハ何クニアルヤ曰ク此ノ如キ相反
 ノ合一ヲ論理學上ニ知覺スルニアリ是レ則チ子ノ功業
 ニシテ子ノ方式ハ此ノ如シ

宇宙哲學史概見

論理學

歌傑兒子ノ論理學ハ道理ニ關セル純粹總念ノ學問的ニ
 發達セルモノナルカ如シ子曰ク論理學ハ上帝カ蠢爾々
 ル動物ヲ創造スルニ先チテ己レカ大自在力ヲ有シテ存

在セシコトヲ顯ハスノ象ナリト個ハ疑モナク影子ノ範
 圍ニアリ然レニ此影子ハ吾宇宙カ全ク因テ其成立ヲ保
 ツ所ノ鳥巢ニ對シテハ單純ノ終極原理タルヘシ
 此ノ如キ總念ノ集蒐及ヒ論議ノ淵原ニ關シテ吾人ハ各
 種ノ哲學者ニ謝スヘキモノ少ラス先ツ亞利多士兒子ニ
 謝スルニ其範疇說ヲ以テシ澳爾府子ニ謝スルニ其本體
 學ヲ以テシ韓圖子ニ謝スルニ其超絶解剖ヲ以テセント
 ス然レ諸子ハ未タ天下ノ理ヲ悉クシテ完全ノ方式ヲ建
 定セサルナリ然シテ後歌傑兒子ニ至リ始メテ大成ノ方
 式ヲ建テ第一ニ此總念ヲ凡ベテ蒐集シ第二批評的ニ之
 ヲ查驗シ其感覺外ノ思想ニシテ純粹ナラサルモノヲ排

出シ第三敏辨法ニ由ツテ他ヨリ他ヲ推論シ之ヲ斐然トシテ章ヲナセル純理ノ方式ニ發達セシムルニアリ而シテ此第三ノ目途ハ歇傑兒派ノ本色ニシ此人以前非低子アツテ道理ノ部分ヲ推論シテ某ノ前起ノ假定說ノ壓迫占有ヲ脱セシムルノ功ヲ勉メタリ然レモ非低子ハ之ヲ客觀的ニ勉メントシ歇傑兒子ノ之ヲ主觀的ニ大セリ是レ其差異ナリ其方ハ始ムルニ次後萬般ノ發達ヲ己ニ包容セル某ノ高尚ナル單元ヲ以テセス是レ此ノ單元ハ其單元ヨリ尙ホ一層狭小ナル物ニ對スルニ非ンハ其効ナキカ故ナリ之ヲ以テ子ハ之ヲ始ムルニ己ニ純粹實在ニシテ次後ノ據証ヲ舉クルヲ要セサル所ノ道理ノ單純ナ

ル總念ヲ以テシ是ニ由テ形而下ヨリ形而上ニ進ミ漸ク純粹整正ノ知識ノ完全方式ヲ立ツルニアリ而シテ此進化ノ原泉ハ遮詮ニ由テ總念ヨリ總念ニ進ム所ノ敏辨法ナリ

歇傑兒子曰ク凡ヘテノ定位ハ遮詮ニシテ各總念ハ自ラ自己ノ反對ヲ有シ其反對ニ對シテ進ムモノナリ然レモ遮詮ハ又タ凡ヘテ定位ナリ表詮ナリ若シ總念遮詮セラレ、キハ結果ハ單ニ眞ノ無トナルノミニアラスシテ之ニ反對ノ具体表詮ヲ生ス即チ他ノ總念ヲ生ス比ヘハ一致ヲ遮詮スルキハ種別ヲ表詮スルモノナルカ如シ此ノ如キカ故ニ子ハ遮詮ヲ以テ敏辨法進歩ノ運車トナセリ

要スルニ各總念ハ其遮詮セラル、ヤ否ヤ直ニ他ヲ表詮
スルモノナリ

宗教・技術・哲學

凡ヘテ精靈ノ所作ハ其目的結果共ニ客觀ト主觀トヲ合
同スルノ意識ヲ生スルニアリ是レ其自由ナリ此合同ハ
端ヲ主觀ニ發メ漸ク外界ニ進ムモノニシテ其合同セル形
体ノ首タルモノハ宗教ナリ抑モ成立スル所ノ精靈即チ
此世界ニ屬スル所ノ精靈ハ克ク絶對精靈ノ實ニ成立ス
ルヲ知ルモノニシテ此其成立ニ關スル意識ニ由リ人生
ノ意志ハ一己ノ私利ヲ棄劫ス即チ虔敬ノタメ之ヲ放擲
ス何トナレハ人ハ其一己ノ爲人ニ屬スル所ノモノニ關

ノ何等ノコトヲモ爲ス克ハサレハナリ若シ人虔敬深ク
骨髓ニ透入スルコトアラハ其一己ノ私利ハ之ニ服従ス
ルモノタルヲ知ラシ此靈魂ノ央集ハ自ラ之ヲ感覺トナ
スヘク又々時々反省トナスヘキ境界ニ達スルコトアリ
故ニ夫ノ外界萬般ノ禮拜ノ義タル祭祀ハ此種ノ反省ノ
表顯セルモノニシテ宇宙ノ意匠ハ此致一合同ヲ生スル
ニアリ祭祀トハ自己ノ資産意志感覺ヲ以テ之ヲ他ニ奉
供スルヲ悦ブノ謂タルヲ見テ宗教ハ主觀ト客觀トヲ致
一スル諸形体ノ首タルヲ知ルベシ而シテ主客ノ兩觀ヲ致
一スル諸形体ノ第二位ハ技術ニシテ其感覺内ニ入ルヤ
前者ヨリ尙ホ一層迅速ニシテ其最モ緊要ナル目的ハ神

幽ヲ顯明スルニアリテ上帝ヲ以テ精靈トシテ之ニ關セ
 スシテ目以テ見ルベキ代現トシテ上帝ニ關スルモノト
 ス仔細ニイヘバ宗教ハ上帝ヲシテ神幽ナラシメ技術ハ
 上帝ヲメ明白ナラシム此ノ如クシテ而シテ後兩觀合一
 ノ第三形体ニ至ル是レ則テ哲學ニシテ三者ノ内最モ高
 尙純粹ニシ且ツ明白ナルモノトス

哲學ノ曉知シ易ラサルヲ論ス

哲學ノ曉知シ易ラサルヤ古ヨリ爾リ其原由一ナラスト
 雖モ吾人が不羈ノ思想ヲ以テ自由ニ形而上ニ事物ヲ思
 考スルノ習慣ナキヤ實ニ其原由ノ一タリ畧言スレハ吾
 カ不能ニアリ吾人ノ原來ノ意識ニ於ケル思想ハ感覺界

ト精靈界トニ於テ吾人が常ニ接見セル所ノ材料ニ壓迫
 占有セラレ次後ノ意識ニ於ケル思想ハ反省推論及ヒ目
 以テ見ルヘキ想像及ビ感覺ト連結ス不羈ノ思想ヲシテ
 自ラ思考ノ目途タラシムルハ自ラ別事ニ屬ス而シテ哲
 學ノ曉知シ易ラサル第二ノ原因ハ意識ニ於テ成立スル
 トコロノモノヲ直ニ觀念或ハ思想トシテ之ヲ看做サン
 トシ或ハ之ヲ以テ心意ノ前ニ某ノ明白ナル想像トシテ
 見ハサントスルニ極メテ熱心ナルニ失スルナリ世人常
 ニ曰フ我ハ吾カ了解セル觀念ニ即イテ思考セントスル
 所ノモノ、何タルヲ知ル克ハス觀念中ニハ觀念其物ノ
 外思想アル能ハザレハナリト此言タル下ノ意ヲ含ムモ

ノナリ曰ク己ニ知了セラレ且ツ常套トナレル總念ニ對シテ一個ノ心熱アリ若シ此總念ヲ擲却スルキハ意識ニ於テハ真正ノ根本ノ擲却セラレタルカ如クナリト然ラバ此輩若シ純粹ノ觀念界ニ入ルアラハ己レ自ラ己レノ如何ナル處ニ存在スルカヲ知ラサルベシ其愚ハ及ハサル可ヲサルナリ

然レモ茲ニ全ク之ニ反スルモノアリ曰ク哲學ハ全ク思考ヲ目的トス人生ハ一個ノ思考實在ノミト此者流ノ言ハ余輩往々未ダ曾テ哲學ノ修練ヲ有セスシテ以テ萬般ノ原理ヲ悟リ千派ノ哲學ニ通セリトナシ哲學ヲ論ズルコト三家村裡ノ教育ヲ論スルカ如クスルノ徒ヨリ聞ク

コトアリ思フニ一科ノ學ヲ全然曉知センカタメニハ縱令ヒ天然ノ心意アルモ之ヲ修メサル可カラス一個ノ履ヲ完全ニ造ラントセバ縱令ヒ天賦ノ手足アルモ術ヲ修メサル可ラス今マ此輩哲學ヲ修ムルコトナクシテ漫ニ是非ヲ其間ニ狹ム殆ンド哲學ヲ以テ一科學一製履ニ讓ラシメントスルモノナリ而シテ此論タル其本原多ク所謂ル經驗哲學ナルモノニ出ツ然ラハ所謂ル經驗哲學ハ天下ノ眞理ヲ亂ルモノニ非ルカ其罪實ニ經驗派ニアリト云フヘシ

經驗哲學ハ哲學ニ非ス

經驗派ノ原理ニ曰ク凡ソ人其ノ事物ニ關シテ言フ所ヲ

自然哲學ナ
ル文字ハ從
來窮理學ト
譯セルモノ
コトヲ孰レ

眞ナラシメントスルニハ躬自ラ其事物ト連接セルカノ
如ク之ニ關シテ知識ヲ有セサル可ラズ仔細ニ云ヘバ自
己ノ存在成立ヲ以テ眞ナリトナスカ如クニ之ヲ眞ナラ
シメザル可ラズ外部ノ感覺内部ノ精靈ニヨリ或ハ自家
ノ意識ニヨルカ孰レニカ由テ之ヲ知ラザル可ラスト此
原理ハ是レ今日ノ直接知識ナルモノニシテ吾人ハ之ヲ
名ケテ哲學ト云ハスシテ一個ノ科學トナサントス其目
途結果ハ理法。遍通原理。吾周圍ニ現出セルモノニ關セル
說等ニアリ即チ牛董ノ方式ハ之ヲ名ケテ自然哲學トイ
ヒ愚漏^{アノロ}忠^{オホス}カ各種國民ノ歴史ヲ相互ヒニ錯綜關係セシメ
テ之ニ其發生結合離分進退スル所以ノ理ヲ界與セシメ

ニテモ可ナ
レハ茲ニハ
哲學ナル文
字ヲ論スル
モノナルヲ
以テ原語ノ
儘之ヲ譯出
ス

シモノヲ名ケテ國民理法ノ哲學ト云フカ如シ英國ニ於
テ哲學ナル文字ハ今マ尙ホ此ノ如キノ意味アリテ牛董
ヲ大哲學士トイヒ晴雨計望遠鏡等ヲ哲學器具トイヒ又
タ人生ノ意志心意ヲモ哲學器具ト呼ビ其間ニ差異アル
ヲ見ス又タ經濟學ノ如キモ英國ニ於テハ經濟哲學ト云
フカ如キ文字ヲ使用シ政治家ノ如キハ此等ノ文字ヲ使
用スルニ些ノ險澁ヲ見ス千八百廿五年二月二日國會ノ
開院ニ際シ武郎^{アノロ}我^{オホス}無^ム侯^{コウ}ハ女皇ノ勅詞ニ答ヘテ自由貿易
ノ哲學上ノ原理云云トイヘルコトアリ又タ内務卿^{カシラシ}肝^{カン}任^{ニン}
處^{シヨ}公^{コウ}ハ首相李^リ伯^{ハク}包爾^{ハク}公^{コウ}ノ面前衆人稠坐ノ中ニ於テ今ヤ
一國ノ政府ノ哲學ノ原理(經濟學ヲ指スノ場合ナリ)ヲ應

用スヘキノ秋ニ際セリ云々ノ言ヲナシ毫モ之ヲ怪ムノ色アルナシ然ルニ我カ日耳曼ニ於テハ之ヲ呼ンテ一國ノ嚴正理財法トイヒ決メ英國ノ如キ價值ヲ過與スルノコトナシ若シ此種ノ言語ヲ用ユルヲ避クルアラハ是レ誠ニ英國政治家ノ名譽トイフベキナリ

○

古來云フアリ亞利多土爾ノ曰ク初ヨリ吾ガ經驗感覺ニ於テ之アラサリシモノ何ソ曾テ思想ニ於テ之アラシヤト以テ經驗派ノ聲援ヲナスモノアリ然レモ是レ亞子ノ言ニ非スシテ好事者ノ意ニ出テ之ニ歸セシメシノミ亞子決シテ此言ヲナサス其出處ノ眞偽ハ指テ論セサルモ

想考哲學ノ原理ハ決シテ此ノ如キ放言ヲ容サ、ルナリ

庶邊包兒子レヒツベンカトル 理府子リフ 布蘭苦子ブランク

哲學上ニ新方式ヲ建テントス

現時日耳曼ノ哲學ハ二大派ニ區分シ各々其行路ヲ逐フノ觀アリ此二大派ノ中一派ハ包波土苦耶士派ニ從ヒ一派ノ内一部分ハ歇傑兒子ノ原理ヲ逐ヒ一部分ハ傑歇兒子ト勢子ト說ヲ交綏セシメタルモノタリ然レモ此等ノ諸派ヨリシテ完全ナル方式ヲ出サントスルハ抑モ亦タ難シトイフヘシ

抑モ日耳曼哲學ハ韓子ニ始ツテ歇子ニ終ルト雖モ前儒後學皆ナ意識ノ内外ニ諍諍ス韓子曰ク吾カ認識力ハ一

方ハ感情ノタメニ限制セラル即チ認識ノ作用ノ材料ヲ
 供出スル所ノ客觀眞体ノタメニ限制セラレ一方ハ吾心
 意ニ固有セル意識ノタメニ限制セラル然ルニ其感覺ニ
 由テ吾人ニ供出セル思想ノ材料ハ萬物其レ自ラニアラ
 スシテ或ハ又タ此ノ如キ眞体ニモ非スシテ唯タ意識ノ
 鏡面ニ於テノ反省ノミト然レモ非子ハ萬物ヲ自身ニ比
 ヘ吾カ思考ノ必然ノ順序タリト雖モ之ヲ以テ主觀ナリ
 トナセリ畧言スレハ我ナラサルモノハ我ニ因テ生スル
 モノトナセリ

又勢子ノ主張スル所ハ此ニアリ曰ク客觀ハ我ナクンハ
 如何ニシテ主觀タルヲ得ヘキヤ如何ニシテ眞体ノ理想

トナルヘキヤ如何ニシテ萬物ハ知ラル、ヤト子ノ説ニヨ
 レハ絶對ハ意識ト成立トノ合一思想ト實在トノ致一ナ
 リトナセリ而シテ本原ノ致一ヲナスハ自己發達自己實
 覺ニ由ルモノタリ歎傑兒子ハ絶對ノ自己發達ノ方式ヲ
 思考ノ敏辦法ニ由テ成功セリ抑モ歎傑兒子ノ原理ハ概
 念ノ形体乃チ敏辦法ニ從ヒテ思考シ此ノ如クシテ正當
 思考トシテ其レ自身ヨリ知識ノ全般ヲ生出シ而シテ之
 ナ以テ一科學トナシ嚴正ナル方式ノ下ニ發達セシムル
 ニアリ子ノ此想考ハ則チ是レ絶對思考タリ爾ル所以ノ
 モノハ其思想ノ順序ヲ一個人ニ再現シ又タ絶對上ノ自
 己意識ニ達スルヲ以テナリ

夫此ノ哲學ノ觀念ヲ以テ思考ニ於ケル必然ノ形体ニ由
 レル思想ノ發達トナシテ完全ニ造作セル方式ニ鑄冶セ
 シハ固トニ歌子ノ功ナリト云フヘシ然レモ歌子ハ未タ
 曾テ其所謂ル實在ト思想成立ト意識ノ眞ニ致一スルモ
 ノタルヲ解説セサルナリ言ヲ換ヘテ之ヲ謂ヘハ子ハ之
 ナ主張スルモ之ヲ證セサルナリ所以ニ兩觀ヲ致一シテ
 其交綏ノ發達ヲ一方式トナセシト雖モ畢竟是レ所謂ル
 偏僻ノ觀念學ノ一派ニ過キス其說ニ從ヘハ眞体ハ自ラ
 思想ナラサル可ラス世界ノ發達ハ思想ノ發達ナラサル
 可ラス天下ノ萬物盡ク之ヲ意識ニ溶解スルヲ得サル可
 ラスト此ニ於テ意識ハ全ク哲學ノ戰場トナリ世界ノ動

搖進退之ヲ悉ク意識ニ歸セサルヘカラス
 然レモ此ノ如キ哲學ハ因テ以テ天下萬般ノ致一ヲ解釋
 スルニ足ラス畢竟ハ觀念學ノ一派タルニ過キス且ツ其
 意識ノ發達ニ於テ歌子ノ方式中猶ホ闕如タルモノアリ
 故ニ近世ニ至リテ意志ヲ以テ意識ニ代ヘ以テ哲學ノ原
 理トナサントスルモノアルニ至レリ此新論ニ同スルモ
 ノハ此原理ヲ以テ萬種ノ科學ニ應用セントセリ其言フ
 所ニヨレハ曰ク意志ハ宇宙ノ本体ニシテ之ヲ開ケハ宇
 宙萬種ノ形体精靈歴史トナルト抑モ首トシテ此原理ヲ
 唱道セシモノハ亞少庶邊包兒子ナリ子ハ千七百九十年
 墮府疾ニ生ル父ハ老練ナル銀行者ニシテ母ハ有名ナル

女史タリ子ハ韓圖子ト同州人ニシテ非低子ノ講義ニ從
 ヒ千八百十三年以後數書ヲ伯林ニ發行ス其内意志及ヒ
 概念トシテ觀察セル世界ト題セル一書ハ子カ固有ノ深
 奥ノ識者タルヲ知ルヘシ此時ニ方リテ篤問善ニ理府子
 アリ歇傑兒子ノ方式ヲ批評シテ之ヨリ起程シテ遂ニ諸
 子ノ此方式ヲ贊クルモノアルニ至リ意志ヲ以テ哲學ノ
 原理トナスノ說天下ニ成立スルニ至レリ
 而シテ後テ理府ノ同州人ニシテ布蘭苦ト呼ベル一青年
 アリ起ツテ二子ノ說ヲ贊ケ哲學ノ現況ト題セル書ヲ著
 ハシテ觀念論ト實際論トヲ交綏シテ觀念實體論ヲ唱道
 セリ是レ新式哲學ノ概論ニシテ未タ史傳的ノモノトナ

ラサルカ故ニ筆ヲ此ニ止メン

○

此他近來性理生理學ト名クル一派アリテ腦ハ唯々心意
 ノ機關タルノミナラス其組織中心意ノ能力ト相關スル
 ノ要素アリトナスニアリ云々我^ガ兒子等ノ唱道スル所タ
 リ

明治十七年十一月廿二日版權免許

全 年十二月 出版

講述者

東京府平民

竹越與三郎

東京神田區末廣町十八番地

定價金五拾五錢

筆記者

新潟縣平民

由井正之進

全所

出版人

東京府平民

大野堯運

東京京橋區瀧山町四番地

發行所

前同所

報告堂

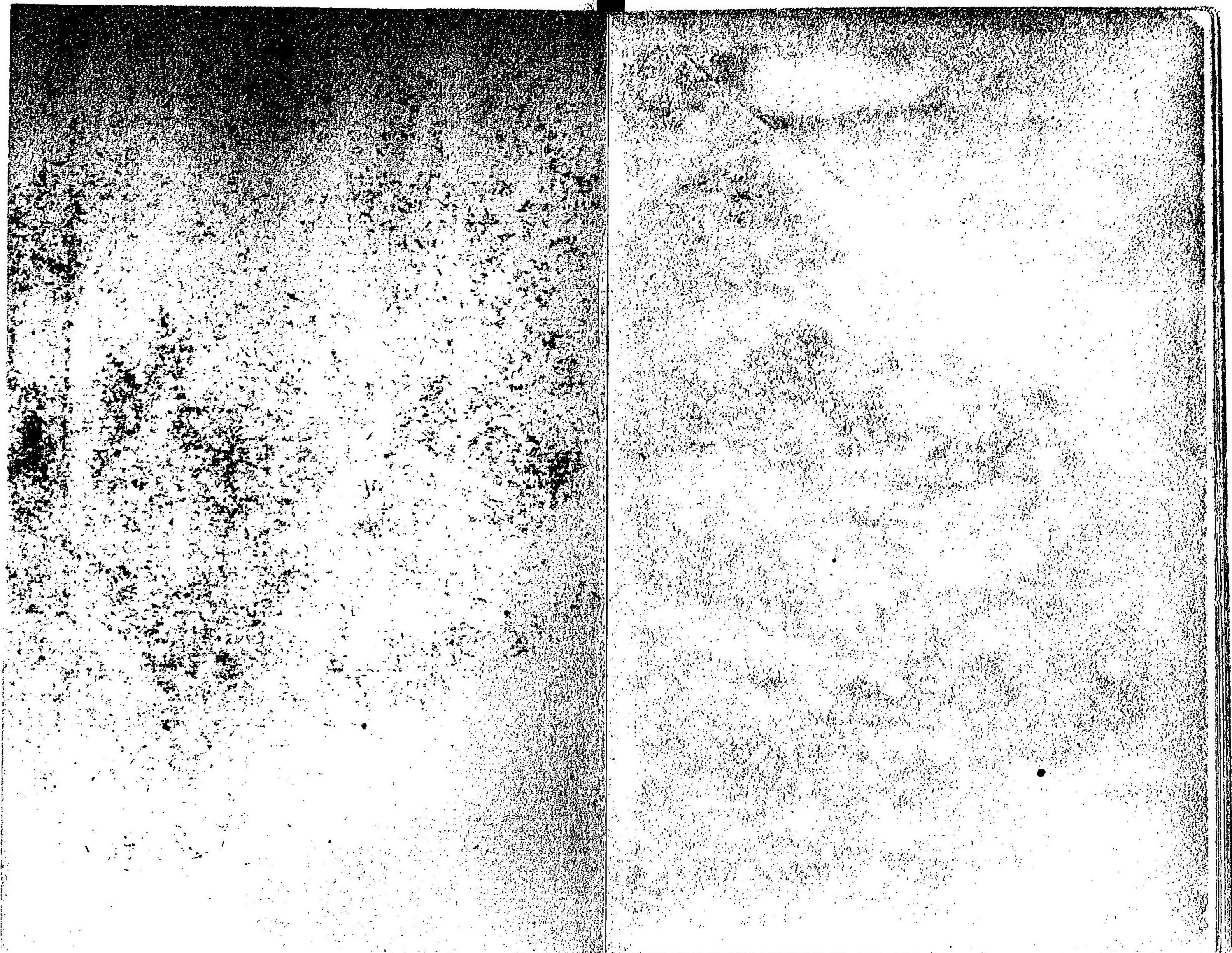
大取次

大阪府下備後町四丁目

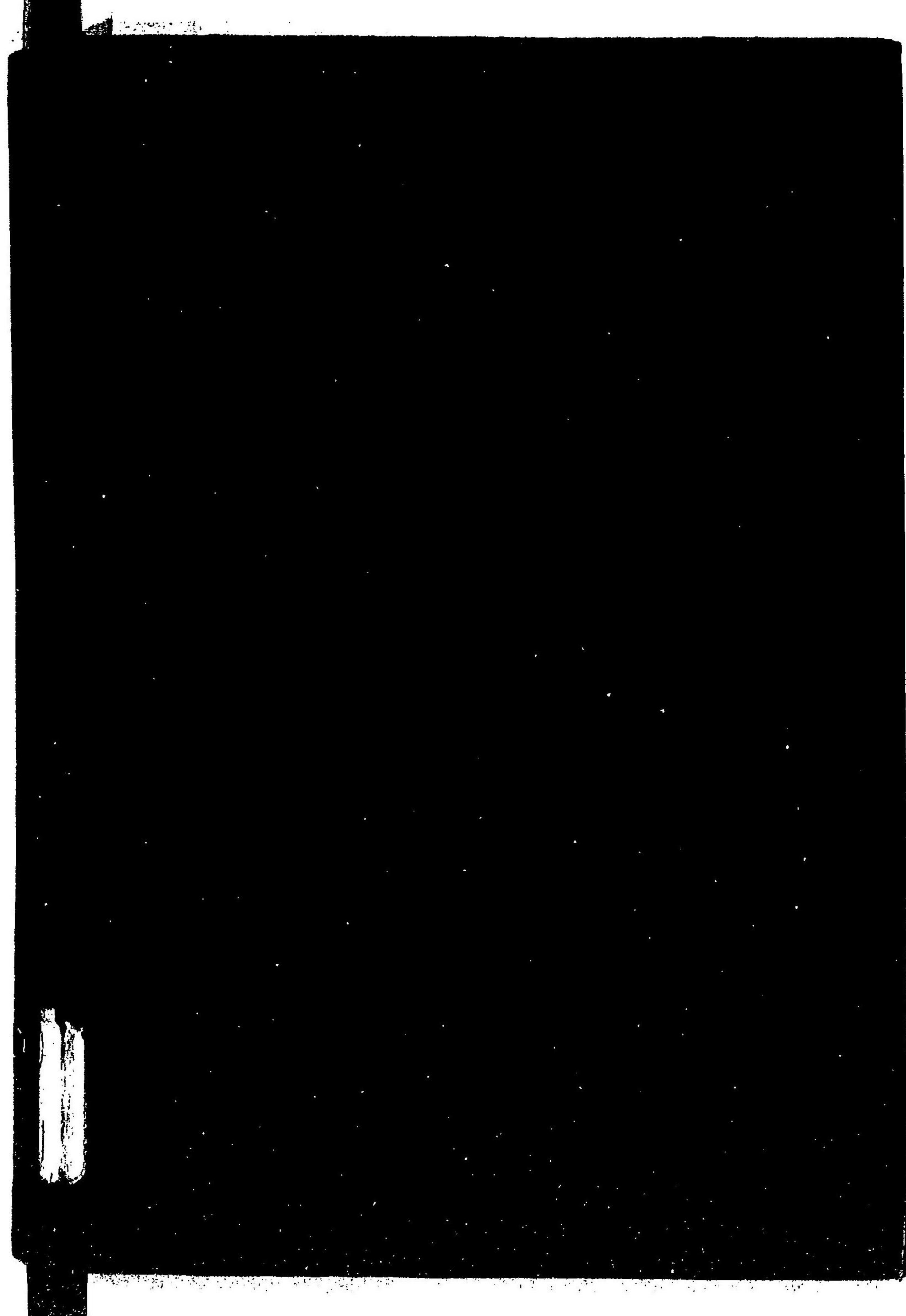
吉岡平助

群馬縣前橋本町

報告堂支店



30
151



30

151

008033-000-4

30-151

独逸哲学英華

竹越 与三郎/述

M17

AAA-0265

